

日本書紀傳 廿一卷二

和 一〇五二二 號

二十

内閣文庫	
番號	和 10522
冊數	156 (72)
函號	特 85 1

内閣文庫



教
庫
部
首

文
庫
直
庫

文
庫
直
庫

内一六八三號

十 十 小註るが如し 但天照御魂神と天糠戸命の同
 社の御在し坐す事ハ一ハ其氏人の爲小祀ハ給へ
 る小在べく一ハ右の鏡作の御事小依りある可し
 若て右の鏡作を加々都久利と訓るハ東大寺戒壇院
 神名帳小此社の事を鏡作大明神と書して加牟加牟
 都久利と訓るハ右の地名の鏡作ハ加賀都久理あり
 又同抄郷名小伊豆國田方郡鏡作加々美豆久里と有
 ハ右と其唱同ト○天糠戸ハ第三一書小鏡作遠祖天抜戸
 兒已凝戸邊と所見たれば此小も天糠戸兒石凝姥者
 あり有べき事あるを其神の造り趣小傳へたる
 も大小由有る事ありけり其ハ傳二十五十小引る古
 史第四十六段徵小伊斯許理度賣命天香山命同神か
 る由ハ神宮雜例集小引る神宮記小鏡作遠祖天香山

○日本書紀傳二十一

○四十二

命と見えたるを心得置て下小擧たら水主直六人部
連五百木部連伊福部連檜前舎人連竹田川邊連笛吹
連等の諸氏の事を明らむる時ハ疑無る可く又石凝
姥命天香山命司神ある上ハ天抜戸神天火明命同神
ある事論じ無しと云れたるハ實小見抜れたる説小
あむ有ける偕其水主直以下ハ姓の事ハ古史傳小註
されたる由あれども此安政四年小至るまで未世小
出ざれハ師の定論小本著て予が思寄れる事を云べ
きあり先其天糠戸神と申奉れるハ上小引る神名帳
頭註小鏡作麻氣神社を其神小御在坐ある由小傳

へたるハ實小然る事少て麻氣ハ所任ニケの義あり此神
の鏡を作らせ給ふと云事此より外小ハ物小所見ぞ
れども右小引る神名式小鏡作坐天照御魂神社大月
嘗次新と有も其神小御在坐あざ縁の由ハ御在坐
坐ざるハ心を著考る小古事記小取天安河之河上
之天堅石取天香金山之金鐵而求鍛入天津麻羅而科
伊斯許理度賣命而令作鏡と所見たる鍛入天津麻羅
命を求給ふも伊斯許理度賣命小科給ふも共小其天
糠戸命の司と爲て所任ニケ給へる所由を以て麻氣神と
申す亦名ハ御在坐ける小ころ然ハ此時高皇產
靈尊の命以て八百

萬神等を會合へて諸の事共令せ給へる中小此鏡作
の事小於て天糠戸命小事依一給へる少て有け
る若て其天糠戸命の計しひりて天津麻羅命を鍛人
と成一石凝姥命を治工と定めて鏡を令造め給へる
事と所故其天糠戸命ハ第三一書小天枝戸と有る其
意の如き御名小あむ御在一坐ける其戸ハ謂ゆる天
磐戸あて抜一ハ古事記小閉天石屋戸而刺許母理坐
也と有る記傳ハ一六小刺ハ三闔タテたる戸小物を刺て固
むるを云ふ万葉一二三十一門立而戸毛刺而有字又
門立而戸者雖闔と有る此小て多都留と佐須との差
有る事を知べ一云一と見えたり其委一き事ハ傳十
九百二十一幽居焉の下小云一を以知べきあり如此く

戸ハ闔たる上小物を刺て固むる物あるを此ハ其刺
固めたるを抜放ち奉れる意を以て天抜戸命一ハ負
せ奉れる御名あり但御戸開の御事ハ傳十九百二十
百五十七一云一如く天手力雄命天鈿女命二神
四百八十一一云一如く事更ふふ事此神小然る御功の事ハ傳一
ざれば猶別意一やと思ふ事あり一熟考る小此第
一書小思兼神云者有思慮之智乃思而白曰宜圖造
彼神之象而奉招禱也と有一如く此小日神を招禱奉
る專要と有る物ハ其日像之鏡及日矛ある小的當ハタ
て天照大神の大御心小感けさせ御在一坐て即其磐

戸を開きて終ふ出させ御在り坐けるも皆其鏡小依
れる事ありは其所謂小依て天抜戸命といふ負せ奉り
る御名ある小違ひ有きトくあむ有ける其時の事を
古事記小於是天照大御神以爲怪細開天石屋戸而内
告者^中略尔天宇受賣白言益汝命而貴神坐故歡喜咲樂
如此言之間天兒屋命布力玉命指出其鏡示奉天照太
御神之時天照太御神逾思奇而稍自戸出而臨坐之^下
と有ら此を以て^{思兼神の謀慮小違はず}其鏡の事より引て終小日神の磐戸
を出させ給へる^御事成れば鏡作神小も必其戸を
開奉れる心の御名ハ必しも御在り坐べき御事あり^行

あり^{但戸ハ開とて}披くとう云べき事あり然ら
あぢや思ふ^小抜こ云事ハ古今小未聞ざる言あり如何
扱と云外有べり^小且開又扱と云ハ其刺固めたる物ハ
物を^外扱^後の事あり今應小開扱クむと爲る^小ハ
先其鑲開めたる所より先扱く事ありければ右の古
事記の文を以てて天石戸を細開させ給へるハ鏡小
因れる事著明りければ扱戸と云由無^先トハ更
ふ云べり又天照御魂神と申奉る所以ハ天孫本紀小
所見たる此神の^本御名を天照國照彦天火明櫛玉饒速
日命又ハ天照國照彦天火明命と^申所見たるハ傳二十
七下小引る大倭本記小一鏡者天照太神之御靈名天
懸太神也今伊勢國磯宮崇^敬拜太神也一鏡者天照太
神之前御靈名國懸太神今紀伊國名草宮崇敬拜太神

今下持小るが如く
天照御魂神を唯
小天照神と有也
其鏡小因て稱たる
御名あり

也略下に有が如く伊勢の御を天懸太神と申し日前の
御を國懸太神と稱奉りし懸ハ借字スカして為炫スの義
ある小同トく此も鏡其作の事小依て天照國照ハ稱
へ火明ホアカリハ比加留の本語めて古事記小益汝命其鏡を奉りて而貴神
坐申と云ひ拾遺小吾之所捧寶鏡明麗恰如汝命之申成
一奉りし如く其光華明彩一事日神の大御光小
異あくざりける由めて其神の御身の光を云ふハ非
ず其仕奉給ひ一鏡の事小因て天照國照彦天火明命
とハ號稱へ奉りし御名小あむ御在一坐ける右の如
く其御名の事を先明りめ置て偕天照御魂神と申す

天照ハ右ハ異ハて皇太神の御事あり御魂ハ其日
像の鏡の御事を申せらあり其ハ古事記御天降段小
於是副賜其遠岐斯八尺勾璽鏡及草那藝鏡云々而記
者此之鏡者專為我御魂而如拜吾前伊都岐奉と有る
是ハて天照御魂神と申すハ天照太神ハ御魂鏡神と
云ふ意味ある御名小あむ御在一坐ける若て又別小
例有り傳十卷三十九下云るが如く保食神ハ稻穀
を主り給ふ大神小御在一坐ふるハ古事記ある須佐
之男大神の御子小宇迦之御魂神有て種蔣陪養カ事
を幽奉りし依て其魂神と申す例小も通ひて天照
太神の天石窟小幽居くせ御在一坐けるを其御象を
作りて出し奉りしを以て天照御魂神と申す義をも
兼て甚ニ功績一御在一坐す故其天照御魂神ハ其
意の御名ある事申すも更あり

天照國照彦天火明櫛玉饒速日命小御在坐す由を
明くめ奉る可し先神名式小山城國葛野郡木島坐天
照御魂神社名神大月次と所見たるを山城志小今在
太秦村東南と有り清和天皇實録小貞觀元年正月廿
七日甲申奉授山城國從五位下木島天照御魂神正五
位下と有て其後小神階の事大の所見ざる小大秦廣隆
寺記小木島明神者靈驗殊勝深秘之明神也自正五位
上遷從四位下美平六年丙申十月二十三日其後正三
位正二位一條院長保五年癸卯十月二十八日從一位
後朱雀院御宇長久四年癸未五月十日被授正一位宣旨

合備文和名抄御名
和泉國和泉郡木
島志乃と有此地
山城國志乃出乃
事神名式和泉
郡波多神社有ハ
秦神社志乃姓氏
録和泉國神小出
乃志乃女臣韓
國連河乃連以下
速日命の御末多
多乃九心由有て
思ゆら事共ふ

在寺 則當寺鎮守也と云り偕其太秦ハ秦始皇と云け
る裔ある秦氏の居地ある小其長として其地小被置
たりけし一姓氏録山城國神 小秦忌寸神饒速日命之
後也と有し合ひ又木島社と云名ハ永万記小見
たる小思合す可き事ハ同式小大和國添下郡登弥神
社と有を志小在木島村と云い小同録左京神別小登
美連饒速日命六世孫伊香我色乎命之後也と見え大
る小相叶へる是即饒速日命天照御魂神同神ある一
の證ある者あり右等の例小依て諸蕃の氏ハ此天
神名式小丹波國天田郡天照玉命神社有を台記久安
三年の下小典樂頭重基申云爲拜氏神下向丹波國と

云事有り重基ハ丹波氏少て姓氏録諸蕃上小丹波史
後漢靈帝八世孫孝日王之後也と有る是あり諸右の
木島社の事小就て遊仙窟文章生英房跋小嵯峨天皇
書卷之中撰得遊仙窟召紀傳儒者欲傳授也諸家皆無
傳學士伊時深愁歎干時木島社頭林木鬱々之所撓木
結草有老翁閉兩眼常誦之問讀遊仙窟曰也伊時聞及
潔齊七日整理衣冠慎引陪從參詣翁所誰來答曰唯
跪申爲得遊仙窟所參也翁曰我幼自吾授此書年闌
倦事僅所學誦而已重申願教此書漢高侯王家居學士
之職女幼誦文睹之無讀矣哀於翁請讀之伊時付假名
讀一帙畢還歸之後送種二珍寶庵跡異香郁不見翁
時以爲大明神之所化現也文保三年四月十四日記云
云と有り右小云る如く太秦丹波あどの諸蕃の氏神
と持齋齋も深き故有る事と聞えたる小遊仙窟の訓
ハ一も甚く美好き古言を多く傳へたる者少て吾僅
皇學小仕奉る輩の助と成る事ありとざるありむ此大
神の尊く辱あり又同式小山城國久世郡水主神社十
御賜物ありける座並大月次新嘗就中同水主坐天照御魂神と所見た
座水主坐山皆大國魂神二座預相嘗祭

る其十座の中ある山皆大國魂命ハ傳十五二百八山
代直の下小云るが如く國造本紀小檜原朝小以天目
一命爲山代國造即山代直祖と見えたる其神小御
在し坐くむを水主坐天照御魂神ハ姓氏録山城國神
小水主直大明命火之後也と所見たる小合し偕此火明
命ハ一も古事記小正勝吾勝ニ速日天忍穗耳命云々
御合高木神之女萬幡豊秋津師比賣命生子天火明命
次日子番能迹柱藝命也と有て瓊杵尊の御兄小
御在し坐すを如何小してり此小ハ天孫降臨章及其
一書共小瓊杵尊の鹿葦津姫命小令生給へる御子

と傳へたる小依て姓氏録小ハ火明命を天孫コ一饒速日命を天神コ一一て同神と一も二柱小別ハ傳へたる事ありども其誤ある事ハ如此く神名式を始めて諸書小考合する時ハ其火明命と饒速日命一神小御在一坐す御事ハ隱ろひ竟ずあり有ける是其三證あり天孫本紀小天照國照彦天火明櫛玉饒速日命九世孫玉勝山代根古命山代水主雀部連等祖とも所見たり神階の御事ハ仁明天皇御紀小養和十一年五月甲辰奉授山城國水主神從五位下一見え清和天皇實録小貞觀元年正月二十七日甲申奉授山城國從五位上水主

神從四位下同八年十一月廿日授山城國從四位下水主神正四位下一見え和名枚郷名小も久世郡水主一有り賀茂神社記小大治二年八月五日賀茂別雷社頭山城國水主郷と見え又水主神社家説小賀茂皇大神宮別雷命也一有一依て小泉康敬説小水主神社十座の中一別雷神も御在一坐ある一也一云一但十座の説ハ已一傳十五卷又同式小大和國城上郡他二百八十四下一註せり一也一田坐天照御魂神社大月次相嘗新嘗一清和天皇實録小貞觀元年正月二十七日甲申奉授大和國從五位下他田天照御魂神從五位上一有一是あり然る一小姓氏録大和國神小志貴連神饒速日命孫日子湯支命之後也和泉又一別天一小志貴縣主饒速日命七世孫大賣布命之後也一神

又駿河風土記
鳥渡郡他田云松
城之社所祭饒速日
命也有ハ更アリ
和名抄郷名小有度
郡他半佐多新居
亦比井有ハ地各
も大和同トク其
所祭示大和同神
ある趣甚能合

見元天孫本紀小饒速日命七世孫建新川命倭志紀縣
主等祖と有ハ合ハリ是天照御魂神饒速日命同神小
て御在一坐寸三證あり又城下郡鏡作坐天照御魂神
社大月次清和天皇實錄小貞觀元年正月二十七日甲
申奉授大和國從五位下鏡作天照御魂神從五位上と
有る是あり天孫本紀小饒速日命十一世孫物部鍛治
師大連公鏡作連等祖と有る是其四證あり但右の志
貴連と此鏡作連と二氏ハ饒速日命の兒天香山命亦
名石凝姥命の子孫ハ尾張連別ハて其弟宇摩志麻治命の
流ありと雖も其祖饒速日命の神業を共ハ小受傳へ

其天孫本紀小饒
連日命六世孫伊香
色雄命有る伊
香ハ鑄鏡あり也
ハ石凝ハて鏡を鍛
一仕奉ル義聞
元七世孫建諸心
大称命云ハ武
鑄鏡の義あり心ハ
凝の義あり事已ハ
傳ハ十世孫小倉ハ如
く大小由ハ合せて

膽

て仕奉れりけむ事云も更更あり然る時ハ上上下下小云
るが如く磯城瑞垣朝小吏更小鑄鏡を造改仕奉れるハ
其饒速日命の御子天香山命と宇摩志麻治命の子孫
相共ハ仕奉るありハある可くや其天香山命の流天孫本紀小七
世孫建諸隅命此命腋上池心宮御宇天皇御世爲大臣
供奉と有れり孝照天皇御世の人ありと雖も妹大海
姫命亦名葛木此命磯城瑞籬宮御宇天皇立爲皇妃と
見えたれりハ崇神天皇御世ハ係れる人あり又宇摩志
麻治命の末ハ八世孫物部武諸隅連公新河大此連公
磯城瑞籬宮御宇天皇即位六十年詔群臣曰武日照命

從天將來神寶藏于出雲大神宮是欲見焉則遣矢田部
造遠祖武諸隅命使分明檢定獻奏復命之時乃爲大連
略^{本より}下有八御紀小所見たり事あらが其武諸隅を一書
云一名大毋隅也^{カホモロスミ}有^リ小備右の建諸隅命と物部武諸
隅連公と別人のして同名あるハ諸隅ハ眞澄と云小
同トク下^{五十九}小云るが如く神名式小尾張國中島郡
眞墨田神社^大名神を多く眞清田と作る其祭神ハ饒速
日命小御在^一坐て眞澄鏡の謂^謂れ小因り社號ある
小同トク此二人の諸隅其功小依りる名と聞え矢
田部と云も其ハ咫鏡を改造ハ仕奉りり部と云事

小て其故由信小詳明ある者あり此小鏡作部遠祖
天糠戸者こ有る部字ハ甚く心を用いて傳^書へりれた
る者こあり所見たりける^{姓氏錄左京神別上天神小}
後也大和國(神)別小矢田部饒速日命七世孫大新河命
之後也攝津國小矢田部造伊香我色雄命之後也河内
國小矢田部首神饒速日命六世孫伊香我色雄命之後
也^有を以て伊香我色雄命ハ鑄鏡石凝男ある事
灼^ツリ鏡を加賀と云ハ此大和國城下郡鏡作を和名
抄小加^三都久利と有る是あり石凝^由事ハ傳二十卷
十^下小云りき備又上^ハ引る神名式小添下郡
登弥神社ハ木島村と云小在て彼山城國葛野郡木島
坐天照御魂神社大月次相嘗新嘗の本社也聞え又大
和國城上郡等弥神社ハ今^外山村と云小坐を姓氏錄
左京神別上天神小登美連饒速日命六世孫伊香我色
子命之後也^見天孫本紀小饒速日命の天降坐す
事を乘^天磐船而天降坐於河内國河上^峰則遷坐於
大倭國島見白庭山云と有あど共小由有る事小か

ける又神名式小丹波國天田郡天照玉命神社所見たり
 國造本紀小丹波國造志賀高穴穗朝御世尾張同祖
 建稻種命四世孫大倉岐命定賜國造之所見たるを天
 孫本紀小依小饒速日命十二世孫と有て此ハ天香山
 命の末あり若て和名枚郷名小天田郡六部雀部神戶
 ふど有る六部ハ姓氏録右京神別小六人部火明命五
 世孫武礪目命之後也と見え又山城國神六人部連火
 明命之後也又攝津國神六人部連火明命五世孫建刀
 米命之後也又河内國神身人部連火明命之後也と見
 元天孫本紀小饒速日命五世孫妙斗米命六人部連等

祖と見え又六世孫建手和迹命身人部連等祖と有る
 是あり次小雀部ハ饒速日命九世孫玉勝山代根古命
 山代水主雀部連等祖と有て右の二氏共小天香山命
 の裔あるあり又神戸ハ此神社の封地と見え郡名の
 天田ハ天照の略と聞ゆるあり又縁の事ハ非ず不
 む有ける此を以て火明命饒速日命一神として即天
 照御魂神小御在坐す第五證小備ふ可き者あり
 傍證とも云べきハ和名枚郡名小氷上比加ニ郷名小
 氷上比加美と有る小△姓氏録を京神別上天神小氷
 宿祢石上同祖神饒速日命六世孫伊香色雄命之後也
 河内國神別天神小氷連石上朝臣同祖饒速日命十世
 孫伊已灯宿祢之後也と見えたるを天孫本紀小七饒
 速日命十一世孫物部鍛冶師連公十二世孫物部大前

○日本書紀傳二十一

○五十二

著

 合備其六人部と云侍
 其祖天火明命彼ハ
 忍鏡を作奉る時小
 日神の天御身の度
 小本等て其御靈
 鏡と造奉り小泉
 る氏ありて身取部
 の義あり後小其氏
 人の鏡作の事ハ世
 奉りて成りてハ六
 月上月晦の御贖小
 天皇の御身の長と
 取奉りて折の料
 の小折ハ山城國六人部
 氏より奉る例多事
 傳り九百七十八年如
 く傳へたる者あり
 天孫本紀起小官酢姬
 命ハ火上子神と
 崇へる尾張氏の
 女なり思合する
 事傳り二十五卷四十七
 小三ろり如く又

又神野神社其末
田郡小見えて鏡
連日命小坐す事次
小云ら如く又

此國小八郡郡八部郡
有り免原郡小鏡美
郡野間神社同神小坐
事下小云ら如く
姓氏録別天國神小
六人部連足張宿祢
同祖火明命世之孫建
乃木命之後也と有り
此小由有る事あり倍

宿祢連公共小氷連等祖と有り又神名式小氷上郡高倉神社八天孫本紀小天香語山命天降名手栗彦命亦名高倉下命と有小合ひ又新井神社見えたるハ次小云ふ攝津國新屋坐天照御魂神社小同ト（小使あり）其何鹿郡小賀美又八田又吉美又物部又三方等の郷名有るをも思合す可一又神名式小同郡高藏神社見え諸右の賀美ハ鏡ある可く八田ハ同式小丹後國與謝郡矢田部神社有る其ト一ハ上と有る大和國鏡作神の下小引ら（如く）八咫鏡の御事小崇神天皇六十

年御紀小矢田部造遠祖武諸隅と有る此命小由有る地名あり神社あり吉美ハ善見小鏡を以て稱たるあり物部ハ鏡速日命の未流ある事今云ふ限小非了此社小蕃種（丹波氏小由有る事）上ある木島社（下小云り丹波忠持朝臣歌小大江山昔の跡の絶せぬ）ハ天照る神ト阿波禮とや見むと詠たり（又攝津國島下郡新屋座天照御魂神社三座並名神大月次新嘗就年天和名抄郷名小照御魂神一座預相嘗祭）新野尔比夜と有る三座の事ハ仁明天皇御紀小嘉祥

二年（三月）庚辰朔申午奉授在攝津國島下郡伴馬立天照神伴酒著神從五位下と有る伴馬立神伴酒著神二座を合せたるあり清和天皇實錄小貞觀元年正月廿七日甲申奉授攝津國從五位下勳八等新屋天照御魂神從四位下と見え（同）五月廿六日辛巳攝津國從五位下新屋坐天照神伴酒等神並授正五位下と有る天照神ハ誤（小）して伴馬立神と有るべき所あり（河内國未定雜姓）諸姓氏録小新家首汗麻惠（宿足尼命之後也）と有る惠ハ志を誤（小）りし（宇麻志麻治命多事等明）天孫本紀小鏡速日命十一世孫物部望志連公新家連等祖と見えたる

る是亦天照御魂神饒速日命同神ある第六證あり猶
云ハバ宣化天皇元年御紀小物部大連鹿鹿火宜遣新
家運運新家屯倉之穀ニ有ハ尾張國之伊賀國との間
小被載たれハ伊勢國ある新家ありけり上代本記豊
受大神御遷幸の所小次山邊行宮御一宿と有る下小
今号壹志郡新家村是也と見え神名式小同郡物部神
社有る即新家村小坐と云り皇太神宮儀式帳小度會
乃山田原立屯倉且新家連阿久多督領磯連牟良助督
仕奉と有ハ孝徳天皇御世小其新家屯倉を度會郡小
移されたる由あり是亦新家小物部氏小由有る證小

して伊勢あり本ありける又和名枚郷名小河内國
志紀郡新家伊賀國阿閉郡新居尾張國海部郡新家也海部郡從三位上
たるを天野信景が集説小天照太神ある由云ハ右
の天照御魂神小坐（心得たるあり又右の
物部望志連公小思合す可きハ和名枚郷名小筑前國
席田郡新居ル比有り又郡名小伊豫國新居仁比
有ハ本ハ神野郡と云ける嵯峨天皇の御諱小同トミ
を以て被改たる由日本後紀小所見たるが神野も新
居も共小饒速日命小縁有る事あり神名式小越後國
磐船郡石船神社ハ大同類聚方小毛乃ニ倍藥物部臣

其傳上二評小本
小饒速日命十四世孫
物部老古連公神野
連等祖有る證
爲ハ又神野ハ饒速
日命小饒速日命
云事小饒速日命
ると思ふ可一又

等之家傳天磐船神社云々云々ハ饒速日命の天磐
 船小乗て天降らせ給へる由の神名あると物部臣と
 の事合たる小今岩船浦云地小坐せど舊地ハ神野
 村ありと桂譽重が話ゆるも思合す可一偕ニイヤニヒヤ新家新居
 相通ひて同ト事あるが攝津國尾張國の新家ハル比
 夜と訓べ一伊勢國あるハル比能美あり和名枚郷名
 小讚岐國阿野郡新居ル比云例有り又伊豫國筑前
 國あり新居ハル比葦あり名義ハ姓氏録右京神別丹
 比宿祢條小即以色鳴爲宰令領丹比部戸因号丹比連
 遂爲氏姓其後庚午年依作新家加新家二字爲丹比新

家連也と有と同ト義めて物部氏の新家ニヒヤある由ある
 が新家をル比能美と訓むハ公小請奉りて更小屯倉
 を建たり一由來小因ゆる者と聞えたり右の伴馬立
 の伴ハ大伴氏の事あり天照御魂神の御伴神の由
 あり詳あらず又馬立神も未考得ず酒著神ハ酒解
 神して彼梅宮坐神と同神小御在し坐ゆや猶考ふ可
 き事あり偕右の新居を仁丹と書く所も有り周防國
 佐婆郡小仁丹村と云有を和名枚郷名小言敷郡八田
 と云有る事上小云矢田部の由小思合す可一又紀
 伊國名草郡小仁丹邊村と云有る此ハ其名勝圖會小
 二并此并を以て仁丹邊の名有り云れバ此の新居
 の例ハ非又予が本生の地即淡路國津名郡仁丹
 村あり隣りて久野ニ村と云有を其小栗村山廢帝院
 常隆寺と云て高山上小崇道天皇の御寺有り其栗村
 ハ久流須の由あり姓氏録河内國神別天神小栗栖連
 神饒速日命子千摩志摩治命之後也と所見たハ仁
 丹ハ新居して其物部氏の族の住り地あり一事知

△隣りて

和名抄郷名小津名郡物部毛乃倍之見元神名式
小同郡河上神社姓氏録右京神別下天神小川上首火
明命之後也有又播磨國揖保郡揖保坐天照神社名
大と有と臨時祭式小粒坐と作れ和名抄郡郷名共
小揖保伊比保と見えたる是あり其揖保ハ五百木
り伊福と約轉り其より伊保と轉れるあり新續古今集
小深き夜小寝覺て聞けバ播磨瀉伊保の湊小千鳥啼
ありと所見たる是あり然れハ和名抄小伊比保と有
る比字ハ粒字小就て添ゆるあり此社清和天皇
實録小貞觀元年正月廿七日甲申奉授播磨國從五位
下勳八等粒坐天照神從四位下と有れども日神小ハ

御在一坐ず天照御魂神ハ坐り同録同四年の下小播
磨國揖保郡人雅樂笛生伊福部部貞復本姓五百木部連
大明命火之後也有是あり姓氏録河内國神小五百
木部連火明命之後也見え又左京神伊福部宿祢尾
張連同祖火明命之後也又山城國伊福部火明命之後
也又大和國伊福部宿祢天火明命天香山命之後也又
伊福部連伊福部宿祢同祖あり所見たり景行天皇四
年御記小天皇幸美濃中略仍喚八坂入媛為妃生七男六
女と有る中小五百城入彦皇子五百城入姫皇女御在
一坐を古事記小ハ五百木と作るを和名抄郷名小尾

今又神名式小葉部
伊富利部社宇天須
那神社あり有る葉部
抄小若葉部云風土記
此部盧入姫命降誕
之地也見たる

張國海部郡伊福こ有る此を以て其産土ありし事を
思ふ可し又其地名を以て御名も爲る事をし知べし但富利ハ伊富伎小同神名式小河内國若江郡若江鏡神社意伎部
神社有ハ息部と云事少て五百木部の謂あり天孫本
紀小天香山命九世孫若都保命五百木部連祖次置部與
曾命と有る置部も息部ある可き小思合す可し偕又
其六世孫建多子利命笛連等祖と所見又姓氏録河内國神
孫別天小笛吹連火明命之後也と有る此を以て右の五
百木部ハ氣吹部少て職員令義解謂ゆる雅樂寮笛生六
人掌習雜笛笛工八人謂供此國樂而吹笛者其唐國以
中也云ら笛生笛工ふとの部を云称あり此等の所由

を思合すれば此の天照神即天火明命小渡らせ給へ
る事著明し是其第七證あり又雄略天皇三年御紀小
與湯人廬城部連武彦曰武彦汗皇女而使妣身武彦之
父和首喻聞此流言恐禍及身誘幸武彦於廬城河云こ
と所見たるも其氏あり廬城河ハ伊勢國一志郡家城
村と云所あり里人ハ家城と書て伊保知と云と其
外諸國小伊福と云地名の多在る此の右少て天照
揖保の如く其氏人の住る小因れるあり
御魂神と申すハ饒速日命小御在し坐す御事を明し
り奉る時ハ其鏡作神と申すハ其天照國照彦天火明
櫛玉饒速日命小渡らせ給ふ事著ければ此小鏡作部
遠祖天糠戸者と有ハ愈其神小坐す事違ひ無く次ふ
る第三一書小天抜戸兒已凝姥と有ハ饒速日命天香

山命御父子の御事見え又天照御魂神と申すハ天照
太神の御魂の鏡神と申す義ある由上四十小云るが
如く又右小新屋神揖保神を唯小天照神と申せるも
日神の御像鏡を作奉りし由小縁なる御名あるを
猶諸國小鏡作神の證も成べき事もやと見以て行
く小神名式小河内國高安郡天照太神高座神社二座
並大月次新嘗と有る此を清和天皇實錄貞觀元年
元号春日戸神正月廿七日甲申奉授河内國從五位下春日戸神從五
位上と有て春日戸神と申せるを同式小春日社坐御
子神社有和名抄郡名同録小尾張國春部加須我倍と所見たる

其地より遷奉れるある可し然れが此天照も上の例
小阿麻呂留と訓て其天火明命の御事あり高座神ハ
其御子高倉下命小坐せば饒速日命天香山命二柱並
坐るありて其御子社ハ宇摩志麻治命小坐小や神名式
小尾張國春部郡味鏡神社物部神社相並給へるを以
證と爲べし又河内郡石切劔箭命神社二座ハ石凝姥
命天津麻羅命小坐事傳二十五十小註るが如し又若
江郡若江鏡神社の御在し坐し姓氏録河内國神小矢
田部首神饒速日命六世孫伊香我色雄命之後也と見
えたる矢田部ハ八咫鏡を造る部を云ハ更あり和名

是其第八證あり

抄郷名小茨田郡伊香以加こ有ハ上五十小云るガ
如く鑄鏡イカハの義ある小思合す可くあじ鏡を加賀と云
小大和國城下郡鏡作加こ都久利と有る是あり又河
内國郷名小古市郡新居河内郡新居と有る皆天照
御魂神小由有る又尾張國中島郡真墨田神社名神
事己小註る如く又尾張國中島郡真墨田神社大
有る本國神名帳小正一位真墨田大名神と有る是か
り墨清字塙本小ハ清スミ小作り一本小ハ明スミと書り仁明天
皇御紀小美和十四年十一月癸亥朔癸酉奉授尾張
國無位大縣天神前田天神三前並從五位下文德天皇實錄小仁
壽元年十一月辛巳詔以尾張國真清田大縣神列于官社同
三年五月辛亥尾張國從五位上真清田神並無位大縣

同七年七月廿六日
授尾張國從四位上
真清田神正四位上
あり有り皆

神並從四位下と有る此無位ハ不審あり此二神相
並びて其事小預給ふ小故有べし真清田ハ上五十小
云るガ如く真澄鏡小依り神名あり小其相並給へ
る大縣天神ハ丹羽郡大縣神社名神と有る是あり右
の縣字ハ懸の本字ありガ加こ須と訓べくして傳二
十ハ十小己小説る天懸太神國懸太神の懸小同ドク
鏡を称たる御名ありガ其大縣神真清田神相並び御
在し坐す事必所由有べき者あり如此く思定てく言
見幸和が宗廟社稷問答を閲る小真清田神社者一宮
記爲大己貴命非也成務天皇朝以天別天火明命十世

孫小止與命定賜尾張國造今所祭愛智郡知我麻神社
是也先是尾張氏上祖等歷世居當國景行天皇朝日本
武尊東征之日所從師之建稻種命者小止與命之子而
祭春日部郡内ニ神社其祖天香語山命者祭同郡尾張
神社凡尾張氏遠祖等所祭國內者三十余座其所出自
遠祖天照國照彥火明命祭之中島郡真清田神社以稱
當國一宮真清田首真神田曾祢連真髮部（連）造等遠祖
也略下之云々然事あり但右小真清田首と云々ハ姓
氏錄大和國神別天神小真神田首伊香我色子命之後也と有
る神字を清小作れる本も有一小や又左京上神別真神田

曾根連神饒速日命六世孫伊香我色子命男氣津別命
之後也又山城國神別真髮部造神饒速日命七世孫大賣布
乃命之後也と有る是少て何れも天火明命の末ある
信小證す小足り若て右の丹羽郡大縣神社を天野信景が
本國神名帳集説小柳莊二宮村本宮坐山頂号真神山コカミヤ
神式作靈本州二宮也と云り右の真神田真神山共小神ハ
鏡の中略して真鏡田真鏡山の義と聞ゆハ真清田
の謂小同くして即鏡小因り名あるを知べく又
上五十小云々伊香我色子命の香我の鏡の義あるを
明くめ然此真墨田大縣兩社マスキタ力饒速日命小御在坐

これより本國神名帳
一同く正位大縣大明
神を見えた

べき御事を曉る可き者あり。其大縣神ハ清和天
二月十七日天卯授尾張國從二位熱田神正二位從四
位下大縣神從四位上伊勢國正三位多度神從二位同
十九日己遣正五位下守右中辨兼行式部女輔大枝
朝臣音人向伊勢國多度神社尾張國熱田大縣等神社
奉神位記財寶に有る熱田神ハ草薙劍あり多度神ハ
天津日子根命あり大縣神ハ饒速日命あり其三神ハ
如此く會釋ひ奉る事故有べし又同十五年八月十三
日授尾張國從四位上大縣神正四位下とも有る眞墨
田神社よりハ神階勝後給後合後あり但天孫本紀
小迹羽縣君祖大荒田後云人後名有るハ縣ハ阿賀多
訓べき後如くあり後此大縣神社を眞神山小坐
云れバ猶其ハ縣を加へ須と訓べく又美和十四年御
紀小天神と有るを以て其縣君の祖ハ非る事を知べ
し諸右の神田の事ハ乾て三代實録貞觀四年の下小
眞神田朝臣今雄賜姓大神朝臣大三輪田ニ根子命之
後也と有る朝臣の姓あり右後別あり但此等の
事ハ依て眞墨田神社を大己貴命と云ふ一説も有る
あり可し何れ後して此ハ天火明命を祀るあり

又和名枚郷名小伊豆國田方郡鏡作加美豆久利と
も見え新居ハ上五十新屋坐天照御魂神社の下小云
るが如く直見多美ハ鏡小就たる美詞あり此三郷
共小其鏡作氏の住へる處あるを戸令小凡戸以五十
戸爲里と有る御定より後小唱別てる者あり可し若
て神名式を閱ら小同郡金村五百氣和氣命神社金村
五百材咩命神社後所見たる金村ハ金之村と訓あり
可し天孫本紀小天火明命十五世孫尾治金連と云人
所見たる小式小尾張國山田郡金神社本國神名帳小
從三位上金天神と有る是あり又中島郡正一位金天

伊予權現の山と日金
嶺と云ふ其神は相
模國高麗寺村と云
ふ神鏡とて移し
奉りし本名久地長
山と改めて其より日
金山と云ひ日金者
先如昔也金故也
と云ふ全く鏡の事
を云ふ若し和名
抄に相模國高麗郡
高麗郡有天香山
命の由有ふ其本
國尾張より先其國
小移り其より伊予
移りしと云ふ又

神と有る其ハ式外あれども同神あるめて金とハ鏡
を造る料の金小由有る神名又人名ありと聞ゆ五百
君ハ五百材と書るも共小上五十小謂ゆる五百木小
て姓氏録河内國神別天孫 小五百木部連火明命之後也と有
小思合す可く又同式小尾張國葉栗郡伊富利部神社
見え愛智郡伊福神社其を本國神名帳從三位伊富利之神と見え又和名枚郷名小海部郡伊福とも有て其本國尾張
の地名あるを思ふ可く是其第十一證あり又其田方
と云郡名も尾張より移せりと聞えて式小丹羽郡田
縣神社其を本國神名帳小從三位上田方天神と有を
以證と爲べし如此其郡名をさへ小本國の神名を
以移せるハ此も鏡作の謂れあるを以

て云るめて若くハハ咫形と云事小て其作ら鏡の形
より云出たる小ハ非ト但舊事紀小日本武尊子武
田王尾張丹羽建部君祖と有も右の尾張の又神名式
田方の地名を以て員せたる者あるハこゝろ
小美濃國各務郡村國眞墨田神社有ハ村國と云地小
右の眞墨田神社を尾張より移奉りしあり和名枚郡
名小各務加と美と有ハ鏡と云事と聞えて愈由有り
又郷名小村國郷各務郷と所見たり清和天皇實録小
貞觀四年五月十三日伝小美濃國厚見郡人六人部重成賜姓
善洲朝臣天孫火明命之後武厲日命之裔孫下と有小
神名式小厚見郡物部神社有ハ其祖天火明命を祀れ
るあり同八年七月 日美濃國各務郡大領各務吉

^雄推(各務)厚見郡大領各務吉宗と云二人同ト各務氏小
 て厚見各務兩郡の大領あるハ其頃世小盛えたる豪
 族と所見たり天孫本紀小天火明命十一世孫物部鍛
 冶師連公鏡作連等祖と有ハ其同族ある少て允小
 當り若て六人部ハ上^五下^十小云る如く身取部小
 て日神の御身長小象どりて八咫鏡を仕奉り天香
 山命の祖名を傳へたる氏あり又各務氏ハ其鏡作の
 謂ひて上ある尾張の眞墨田神社の下小云る事共小
 信小相叶へり是天火明命饒速日命一神小御在坐
 て鏡作神と坐す第十二證あり又厚見と云も鏡の善
 く見ゆる義を以て云

△和名枚郷名小大
 和國添下郡村國
 天田と有る矢田ハ
 上小云る如く八咫鏡
 の謂ある此小村
 國眞墨田神社に
 續きたる天小合り

小ハ非る又六人部を改めて善淵朝臣の姓を賜へ
 るハ其善淵若地名あり善淵縁めて鏡の縁を善成
 一エゆる由あり又續紀小村國連又日本後紀小
 弘仁十三年三月丙辰割越前國江沼加賀二郡爲加賀
 國と有て和名枚小加賀國加賀郡と見えたる加賀ハ
 鏡の義ある事上小引る和名枚郷名小大和國城下郡
 鏡作加と都久利と見え又其饒速日命の六世孫伊香
 我色^許命と申すも鑄鏡石凝雄命の義あるあど是か
 り神名式小野間神社神田神社下野間神社見えたる
 其ハ天孫本紀小饒速日命十四世孫物部金連公野馬
 連借馬連等祖目大連之子と有る金連ハ右小云る尾

公より又神田神社ハ
上は十道皇孫田神社ノ下
の云々皇孫田の略小
て其し本より鏡小
田ノ事

張金連と同一く金とハ鏡の謂あり小和名枚郷名小
江沼郡八田也多能登國能登郡八田也太越中國礪波
郡八田越中國新川郡布留あとの有ハ神名式小攝津
國能勢郡野間神社有を志小今称布留宮と云ひ和名
枚郷名小免原郡覺美有村名小今も御影と云地有
り又郡名小八部夜多倍郷名小八部也多倍と有あど
の所以小何れも思合す可き所謂のあむ有ける皆此
野間神社ハ尾張國本國神名帳小智多郡從三位上野
間神天と所見たゆバ其小起れるあり次小云ふ伊豫國
野間郡野間神社名神大を御紀三代實録小皇神スメカミとも天皇神カミとも

公より是其鏡連命
即鏡作神小坐す
第十三證

見えたる皇神云事の由陣下小云ガ如くありバ其物部の遠祖して
然称奉る程の貴神ハ何神ハ御在一坐む決めて饒速
日命小御在一坐つ可き事心を平らしりて考ふ可き
者あり 但其金連公天孫本紀ハ十三世孫物部金連
あり然る小右小引るハ十四世孫ありて物部目連公の弟
子と見えて世も隔ざる小同名の人の續き小二人有
るハ甚疑ハ一キ事あり故思ふ小其實ハ十三世孫あり
るを目連の子と成て其家を継たり故小十四世孫あり
小も出たる少ヤ何れも其下小子孫の姓氏を擧げたる
小目連公の下小其事無きを以て證と爲べ一右の借
馬連ハ和名枚郷名小加賀國石川郡笠間加佐萬と見
え神名式小同郡笠間神社有る其地小因り姓あり
る一又和名枚郷名小阿波國阿波郡香美加と美と有
る鏡の謂あり又枚野郡新屋名方東郡新井下地勝浦

郡新居ル比乃井乃比と有郷名ハ饒速日命の神裔の住る地也

事上五十三新屋坐天照御魂神社の下小云るが如し

若て神名式小麻殖郡(神)天村雲神伊自波夜比賣神社

見えたる其ハ天孫本紀小天火明命孫天村雲命亦名

多と有る此神アミノイタテノミコト亦名を天立多底命と有イタテ鑄立と

申す事小て鏡作の謂あり又三世孫天忍人命此命異

妹角屋姫亦名葛木出石姫為妻と有て右の天村雲命

の女あるが出石ハ鏡アテイシを鍛す時の質石を云るイシハヤ而て伊

自波夜ハ石榮イシハヤの義ある可きを思ふカタシキ決く右の二神

小坐べカタシキ其鐵碓カタシキの事ハ傳二十五十三小己五十三小註り又同

郡伊加志神社ハ伊香我色雄命ある可く其即鑄鏡

石凝命ある由己小註り又天水沼間比古神社有り天

孫本紀小饒速日命十四世孫物部阿遲古連公水間君

等祖と有て由有る事共あり此を以て右の香美ハ鏡

の謂ある事を知べく又天香語山命の兒天村雲命小

も鏡作の功坐を思ふ可く是天香山命石凝鏡命同神

あるを明しむる證ある上ハ饒速日命天糠戸命同神

小渡りせ給へる第十四證あり又同式那賀郡和耶神

と有ハ和耶の誤あり可社和名抄郷名小和射又海部加伊布と見えたる

小天孫本紀小天香山命語十世孫淡夜別命大海部直等

金子以奉幣氏神向阿波國之有山背忌才八傳十五
卷二百八十三下云云天津彦根命の末あるは非
ずして山代直の族ゆて饒速日命の後あり若て其淡
夜別命ハ其阿波國ハ別以給へる意の名あり和耶ハ
其略ある可一淡ハ阿波沫ハ阿和 又和名枚郡名ハ讚
假名違へれども抱ハ可ク可ク 又和名枚郡名ハ讚
岐國香川介加波と有ハ鏡川カミガハの略ある可一神名式ハ
同郡田村神社大神一宮記ハ猿田彦命と所見たり然
るハ同枚郷名ハ土佐國香美郡田村多無良と書せり其地上
り移せる地名ありむり大同類聚方ハ鏡藥讚岐國香
川郡田村神社傳方云こと有る此を以て郡名ハ香美
ハ鏡川あり事を知て更ハ其所由を索るハ神名式ハ
那珂郡神野神社天孫本紀ハ饒速日命物部老古連公

神野連等祖と所見たれハ上五下云るガ如ク其饒
速日命ハ渡りて給へる事論無一然ハ神野ハ鏡主
と云事の約りたる者こそ聞えたる又新田郡高屋神
社姓氏録河内國神ハ高屋連饒速日命十世孫伊已
止足居大連之後也と有る此ハ天孫本紀ハ九世孫物
部五十琴宿祢連公瞻昨宿祢之子有る人ありガ其父瞻昨
ハ鑄組あるハ對ひて鑄事と云めて事ハ業あり共ハ
鏡作の事ハ因りる名あり其瞻昨宿祢の從弟武諸隅
連公大母隅連公二人の 諸隅ハ眞澄と云ハ同トキ
由上五十ハ己ハ云ハ其瞻昨宿祢の弟物部片堅石連

公と云ハ傳二十五十三十云云古事記ハ取天安河之
 河上之天堅石云云令作鏡ト有ト同ト義ノ名アリ又
 又其弟物部印岐美連公ト云云鑄イ君キミ云云意ハ可キ
 又ト皆ハ其ノ鏡ノ作ノ功ノ依テ負ル名アリを知べシ又ト大
 内郡水主神社ハ上四十ハ十云云如ク山城國水主坐
 天照御魂神ト同ト神ト坐ス事申すモ更更あル上ハ讚岐
 國ノてモ鏡ノ作ノ氏ノ人ノ住ルを知り又其ノ饒祖速日命
 即鏡作神ト御在一坐す第十五證是アリ又和名枚郷
 氷上比加美河野郡新居ハ比乃美川田郡高屋多加也
 又有也皆由右事有り氷上ハ丹波國氷上郡有也式
 小高藏神社ハ神野神社有り其由上五十二下云云又神
 天孫本紀ハ十一世孫物部鍛冶師連公鏡作氷連等祖

△見え又右小引る高
 屋連其國の神
 別小

と有ハ思合す可一新居ノ事ハ右云り又其高屋ハ
 神名式小河内國古市郡高屋神社見元同枚郷名小古
 市郡新居也有り又神名式小伊豫國野間郡野間神社
 本國河内國也有り又神名式小伊豫國野間郡野間神社
 社名神大ハ上三十六十云云加賀國加賀郡野間神社乃例
 あり三代實録貞觀年月小野間天皇神ト見元
 慶五年十二月小野間天皇神ト有る上ノ神字ハ行小
 て天皇神ハ皇御孫尊ノ謂ハ非ズ神を崇ムへて皇
 神ト云云ふ例ノ事あり備又風早郡國津比古命神社櫛
 玉比賣命神社相並べる國津比古命ハ其饒速日命ト
 あり御在一坐ける其小國造本紀小風速國造輕島豐
 明朝物部連祖伊香色男命四世孫阿佐利定賜國造ト

出たる小續後紀美和六年の下小風早直豐宗賜姓善
友朝臣天神饒速日命之後也又見え三代實錄貞觀二
年の下小物部朝臣廣宗卒本伊豫國風早郡姓物部首
と有る此を以て其祖饒速日命を國津比古として祀
奉れる由所知たり若て神名式小大和國添下郡矢田
坐久志玉比古神社二座並大月と有る其饒速日命を
天照國照彦天火明櫛玉饒速日命と書し姓氏錄小櫛
玉饒速日命又ハ櫛玉命と申す小同ドければ此も其
夫婦二神ある事を知べきあり和名枚郷名小添下郡
村國矢田と有る村國ハ上六十小註ろ式小美濃國各

勢郡真墨田神社ハ此饒速日命小坐し又矢田ハ上五十
下小引る姓氏錄左京神別上天神小矢田部連伊香我色字命
之後也又大和國矢田部饒速日命七世孫大新河命之
後也又攝津國矢田部造伊香我色雄命之後也又河内
別神饒速日命六世孫伊香我色雄命之後也又所見た
る是ハ八咫鏡を造奉れる部あるハ諸國ハ八部ヤクベ
又八田ヤクと云る郡郷の名も其小縁れる事右小次と云
るが如し此を以て國津比古命を矢田坐久志玉比古
神と知る時ハ此の櫛玉比賣命ハ其后神ハ右の二
座の一ある事又明ク知るハ又和名枚郡名

小伊豫國越智と有を國造本紀小輕島（聖）明朝御世物部
連同祖大新川命孫子致命定賜國造之見え姓氏録左
神別上 小越智直神饒速日命之後也有又上五
天神四 小云（和名）郡名小新居尔比并有ハ續紀神護二年の下
小神野郡有を後紀以以郡名同天皇諱改新居有
も其同卜節の事を以て改給へる以て天孫本紀小饒
速日命十四世孫物部老古連公神野連等祖有る神
野ハ鏡主以て其祖神の鏡作神坐す謂あり新居ハ
上五下三 小云新屋坐天照御魂神社の御事考合す
可きあり右件伊豫國の事於て鏡を造り跡ハ

見えざる者々 饒速日命の鏡作神坐御在坐す證
共の有あり是其第十六證あり 猶和名枚郷名小新
屋尔比也喜多郡新屋尔比也有を續後紀嘉祥三年
七月の下小伊豫國喜多郡人物部連道吉云人名所
見たり又神名式小伊豫郡伊豫豆比古神社有ハ右の
風早郡國津比古命神社同神以て即饒速日命御
在坐あり小姓氏録右京神別下天孫伊與部火
明命五世孫武碯月命之後也有を思合可し
又神名式小土佐國香美郡天忍穗別神社ハ傳十五二
三下 小註せら如く天忍穗耳尊の亦御名有る事今
云ふ限非ずと雖も又此一の考有り其郡名ハ和
名枚小香美加美と有て右六下四 小云阿波國阿波
郡香美郷同卜香美ハ鏡の謂有る以て美濃國各

△後紀延暦二十三年
小土佐國香美郡
物部鏡連家
至云と有て已小
鏡連云ふ姓氏首
を

務郡又ハ加賀國あど云る皆同ト事あり又和名枚郷
名小香美郡物部毛乃倍田村多無良之云る二郷共小
由有る事ハ類史小土佐國香美郡人物部文連之云人
名有る小天孫本紀小天照國照彦天火明櫛玉饒速日
命十一世孫物部鍛冶師連公鏡作連等祖之有る郡名
の鏡ハ係て思ふ可く又田村ハ上六十一云る神名式
小讚岐國香川郡田村神社名神大有る大同類聚方小鏡
藥讚岐國香川郡田村神社傳方之有る此を以て其香
川の鏡川ある事を知る時ハ土佐之讚岐之二國小相
同トキ地名有ハ實小所由有る事ありけり此小就て

考る小天忍穗別神ハ天忍火明神ニ申す事ハ本上
リ天忍穗耳尊之亦御名を天忍穗別尊ト申すハ稻穗
を以て称奉らる御名此の穗別ハ火明ハ上四十一
云る如く鏡此神の作の明麗ト由小依て號奉らる御名あり
ハ此ハ饒速日命の御事小あり有ける谷重遠ガ式社
考小山田野東西舊有ハ王子逆物部川此社歟物部川
源有鏡岩ト有る鏡作神の由小相叶ひ又傳六十一天
上浮橋の所小引る土人説小香美郡大里莊東川村小
石船明神ト云ふ舊社有り古老の傳小石舟小乘て天
降給ふ神ありト云り社傍小石舟有り古代神造の物

と所見たりと云るハ其神饒速日命小坐す事著明
其石舟小乗て天降給ふハ神武天皇三十一年御紀
小及至饒速日命乗天磐船而翔行大虚也睨是郷而降
之故固目之曰虚空見日本國矣と有ハ此ハ大和國小
ての故事ありども其御名を失ひて傳へたるあり
又上四十五下十小云る越後國磐船郡磐船神社ハ饒速日命
小御在一坐小も思合す可一斯れハ右の天忍穗別神
社を此神と定めむ事如何ハ謂れざる事ありむ是即
天火明命饒速日命本より一神小一て鏡作の御功御
在る坐す御事を明くめ奉る可き其第十六證のむむ

有ける大里莊と云るハ和名枚郷名小大忍於保左止
グハ猶片假字して於保左止と訓るを以て其誤灼け
れハ今改め引つ又石村伊波良と云る郷名有も由
有けある事あり諸其天忍穗別神社を天孫本紀小天
村雲命の子小て天忍男命有れども其小當て心得べ
ずあり非故右の如く明くめ以て此より彼小校べ彼
より此を訂一辨ある時小此小鏡作部遠祖天糠戸者
と有ハ即天孫本紀小謂ゆる天照國照彦天火明櫛玉
饒速日命小渡りて給ふ事實小明くけく又石凝姥命
と申すハ其御子天香語山命の御事あるも甚能相叶
へる事あり若て天孫降臨章第一一書小も鏡作上祖
石凝姥命と所見たりハ其天香語山命の子孫小必其

鏡作氏ハ有べき事あり却りて其身宇摩志麻治命
の未小鏡作連と云有れば右と合さるが如し然れど
も此小鏡作部遠祖天糠戸者と有る鏡作部とい其兩
神の子孫ありて鏡作小仕奉りる部あり甚多在りけり
一此を以て右の尾張氏と物部氏とい其鏡作の部有
て相共小仕奉りけり此ハ其二氏の太祖と御
在り坐す故小漏さどと爲て鏡作部遠祖とい書させ
給へり少て甚く心を用ひさせ給へる文ある者あり
諸神名式小此神を大和國城下郡鏡作坐天照御魂神社大月次と祀
奉りせ給ひ又同郡鏡作麻氣神社を頭註小天糠戸命

と有る此時の長く御在り坐て天香山命を使ひて造
奉りしめ給へる義ありて麻氣ハ所任の謂あり又鏡作
伊多神社を頭註小石凝姥命也と有る伊多ハ鑄立小
て御父天火明命の指揮給へる任小鍛一作り仕奉り
一由あり此を以て其鏡作の御事ハ其饒速日命
其主宰と御在り坐を以て天照御魂神と御名小御在
り坐す御事を明しめ奉る可くあり有ける然れバ師
の古史徴
小石凝姥命天香山命を同神と見定め又天糠戸命天
火明命一神ある可き由小云はたり一言ハ三千年以
來世小天火明命と饒速日命とを別とし思違へたる
誤を正して万世の惑を解く可き言ありて其功古今小
肩を比ぶる者あり無りける今如此く説註すし云し
師の御魂の天翔來て告書さしめ給へる心ちが爲

○造鏡ハ令造鏡の義あり偕此ハ天糠戸命をして
 令造給へるハ非ず古語拾遺ハ且令太玉神變諸部
 神造幣帛有ハ太玉命の造給ふハ非ず其變給ふ諸
 部神をして令造給へるありども此ハ忌部遠祖太
 玉者造幣と書されたること同ト文体あり然れバ上
 三ハ引る古事記ハ取天安香河之天堅石取天金山之鐵
 而求鍛入天津麻羅而科伊斯許理度賣命令作鏡有
 其二神の所置ハ即此天糠戸命の所任給へるハ
 必有ける故此事依て神を天照御魂神と申して其鏡作の御
 事ハ專此神の御功トハ立る者あり
但第三一書鏡作
遠祖天糠戸兒已

凝戸邊所作ハ咫鏡と有ハ其鏡を作り上給へるハ其
 石凝魂命ありて天糠戸命ハ其長と御在坐て其
 事を照檢リ○忌部遠祖太玉者造幣ハ古語拾遺ハ
 爰思兼神深思遠謀慮議曰且令太玉神變諸部神造和
 幣と有る是あり然れども傳十九百五十一ハ辨へたる
 如く造和幣ハ造幣帛の誤あり其次ハ令長白羽神
 種麻以爲書和幣古語ハ
伎臣令天日鷲神以作白和幣と有
 如く和幣ハ其太玉神の變給へる右の二神の造給
 ふ所あり且其字の訓ハ初て出たる所ハ註さるハ凡
 ての例あるを此ハ造和幣の下ハ何とも無くして
 後ハ出たる青和幣の下ハ古語ハ伎臣と有る此を以

て初あるハ和幣ハ非る事を知べし又其より前文
小太玉命所變神名曰天日鷲命河波國忌部等祖也千置帆負命
讚岐國忌部祖也彦狹知命紀伊國忌部祖也櫛明玉命出雲國玉作祖也天目
一箇命筑紫伊勢兩國忌部祖也と有る此を以て見る時ハ此の幣
帛ハ皆くしりて太玉命の掌とせ給ふ事灼然
此即右の和幣ハ幣帛を譌りと云ふ見識の定まら
所以あり猶云つ其御天降段小豆太玉命變諸部神
供奉其職如天上儀仍令諸神亦與陪從と有る神武天
皇段小又令天富命變供奉諸氏造作大幣と有る同ト
趣の言あるを其前文小又令天富命變齊部諸氏作種

ニ神寶鏡玉矛盾木綿麻等と所見たる此彼考合せて
太玉命の諸部神供作をして令仕奉給へるハ和幣のこ
ハ非ず凡ての供神之物の事あり右の造和幣ハ此
の造幣と同ト事ありハ後人の狡意ハ加たり
者しりて造幣と造幣帛ハ必有つつむ事云も更更か
る事ありけり此の造幣の事を知ふハ先右の拾遺の
りりざる爲ハ云あり神名式小因幡國ハ上郡美幣幣沼
神社因幡志志云物ハ東郡私部郷篠波村忌部大明
神社傳云天太玉命と云る由有る事あり然ハ美
幣沼ハ御幣主と申す事ハ諸部神をして幣帛を令
造らら幣ハ記傳ハ三引引れたる和名枚祭祀具
小幣和名美天久良靈異記小幣帛美天久良と有る何

合符三書小乃使志
部首速祖々玉命執
取云々

物の在り神小獻物の換名あり採之有が如一名義二
有り御手座又亮座の二義ありが何れなりても座ハ
其獻物を居置く臺ある事已小傳十九五百六十座置
戸の下小註るが如し此のてハ其座成り者即天此
香山之五百箇真坂樹を云事次小云を見べし備御手
ハ古事記小天香山之五百津真賢木其根許士尔許士
而略此種ニ物者布刀玉命布刀御幣登取持而云古
語拾遺執取又ハ其物既備堀略令太玉命捧持称讚之所見
たる登取持而又ハ捧持あり有る此方の事小云ふ手
ハ非ず神の御手小執せ奉る義ありと聞ゆ其ハ傳

十九三百七十載る神樂採物幣歌小本方美天久良波王
加仁波阿良須阿女仁非万須止與遠加比女乃宮乃美天幣
久良之所見たる幣ハ我獻ら非ず天小坐す豊岡姫神
の調へて進らせ給ふ幣ありと先其獻らせらるる所
以を云て次小末方美天久良仁幣奈良方志毛乃遠須皇へ
加美乃美天仁止良禮天神奈津佐波万之遠之有ハ幣小
成成り物成りを皇神の御手小取りて馴ひ奉らむ者を以
云事めて皇神の納受させ給ふ趣を諷たりし者あり
幣を美天久良と云ふ美天即右の美天仁止良禮天の
美天此小同トきを思ふ可し備此小賢木小鏡玉和幣

△此に六神樂採物の幣も其類からて木ノ枝の供神の物を著たりしも嘗て昔已く然る事止り

等を懸小太御幣と獻ゆるを始りて凡て上古のハ神小獻りる物を七人小贈る物をも木枝小附る習ハありつねに其附べき木枝を久良と云ひ其物を附て美氏具良と云たりけり今淡路國の方言小(木枝の薪新小伐束ねたるを氏久良と云るハ其事ハ替りあがり猶古言の亡せず傳ハゆるありけり若て記傳小蜻蛉日記小美氏具良一夾二夾と有ハ絹布あどを串小夾きて奉るを云あり太神宮年中行事六月二
次祭條小抑一祢亘寮幣申時云々又寮幣者長串用紙
校也云と云(云)ハ稍木串小夾む事小移り其より絹

△其天皇の御方を
出奉りて
口記傳小後の

布小代て紙を用ふる事と成りしめて後世(世小傳と)の用ふる幣と云物の始あり記傳小美氏ハ御手あり即此持て獻る意ひて云り又豆ハ多牟氣の切りたる小取御手向久良の意ひて有べり何れハ在此御ハ下の久良小係るあり又手向小附たる辭ハ非ず云くと云れたるハ如何あり御手ハ其獻りて取らせ奉る神の手ありばこり御手ハ其上久良へ係ゆる御手由小云れたるも近遠き事あり諸記書あると給祿の事を御物給布とも大御物賜布とも常小云を又時としてハ大御物賜布とも天皇の御物を人臣小下賜はる事ある故小御手物とも云あり此も御手ハ天皇の御手づく神小獻給ふ物を御手久良と云習へる其名を始へも巡りて此段ハ然云るのみ有べり御手向も同ト云義ひて天皇の神小獻りて給ふ久良ある故小御手座と云るとも思ゆれども其ハ天皇の御上ありはこり有けれ凡人めても神小獻る物を美氏具良と云る小余りハ神を蔑如し奉る事ある小非ずや然れば御手を神の御方小届て心得

むこりハ平徳ある
 可_レ事ありけれ
 又_{記傳}祝詞考ハ師説ハ充座の意
 して置座（万物を）充て奉るを云と有れども然てハ賢木の
 枝（葉）著たる小叶（葉）りず且此ハ御字を添て書るハも叶
 ハざるをやと云れども充座の説甚妙あり然るハ座
 之ハ物を置居る所を云ありハ賢木（葉）著たるも座
 又案上ハ並ぶる其も座あり其置居る義ハ於て更
 小異ありざるあり然るハ充ハ大後詞後釋附録ハ称
 辞竟奉の多_{（開）}波ハ水の湛（開）みると同言ハて満足ハす
 意あり今世の言ハ海潮の湍極（開）みるを汐の湛と云
 も同一凡て神を祭るハ事をも物をも満足ハ一盡

一究めて其由を申す事ハて即祝詞の語是あり（下略）
 云ハたる稱と同様ある語あり祈年祭詞ハ初穂（波）
 千類八百類（ル）奉置（ル）鴈（開）高知鴈腹満（ル）雙（ル）汁（ル）類（ル）
 称辞竟奉（ル）之有を始として鴈上高知鴈腹満（雙）籠（ル）
 云語共多く又大忌祭詞風神祭詞等ハ奉宇豆（乃）幣帛
 者云（ル）至（万）如横山打積置（奉）此宇豆（乃）幣帛（子）
 安幣帛（能）足幣帛（止）皇神（能）御心（ル）平久間食（能）云（ル）
 有る宇豆（ハ）古語拾遺ハ蠶織貢調充積庭中賜姓宇豆
 麻佐之有て言隨積埋益也と云ハハ宇豆（ハ）充の義有
 上ハ安幣帛の安ハ蕃息（ヲ）義あり足幣帛の足ハ満

足りせら義あり右の安足共小本より充ミツの意有り
 如横山打積置氏ハ平野久度古開鎮火等祭鎮御魂齊祭詞氏如横
 山置高成氏道郷食祭詞小横山之如久置所足氏太神宮
 月次神嘗等詞小如横山久置足成天あども云て此小
 も充の義惹く小在り然れバ神小獻る座ハ心の限り
 盡し究め満足ハて奉る物ある謂小依て充座コハ
 云ありけり記傳小充座の義ありむの御字叶リガ
帛也謂布帛紙之類也有る如くある小即上小御良
 拾遺小依小鏡玉元盾木綿等と見えたりハ美氏良
小ハ當るぬ字ありとも外小當バキ字無キガ故小古
より用ひ來れるありハ其幣字の上小唯御を加へて
崇あへたるありハ言義久良ハ傳十九五百六小引る
小於て抱るざる事あり

私記小座者是置物之名也と所見其の本文小科之以
 千座置戸と有る此ハ責其被具と有て下小被具此
 云波羅開都世能と見えたり此を以て其座と云る即
 物ある事を知べ記傳八四十小貞觀儀式大嘗祭條
小倉代十雲シロ云る代ハ實シロして即其物を云ふ續後紀
 小天長十年四月壬午出雲國司出雲國司出雲國造豐持等奏
 神壽并獻白馬一疋生鶺一翼高机四前倉代物五十荷
 と有る此國造神吉事を奏す時白馬鶺と共小劔鏡を
 も獻り例神龜三年御紀小見え又五種神寶兼所出
 雜物を獻り例天長七年御紀小見え又神壽詞小白

馬白鷲の外小玉横刀鏡などを獻る由有らば此倉代物との斯る雜物の物を惣云ふ所の^見例共小乾て案ふ小右小高机四前と有ハ千座置座の座小同くして此の倉代の倉是あり劍鏡又ハ五種神寶雜物と云らハ倉代の代小して其高机の上小並べ置く實を云ありけり右ハ座小置べき實ある故小倉代とい云らを其實の^{シロ}事を略きても其實の稱と成る事右の千座置座又ハ此の御千座又亮座の義ある小思合せて曉る可き者あり

但机を云も木枝を云も物を其小著る事小於て等しけれ

ハ何れありても座あるを^{シロ}知べし倉代の代ハ實ある事ハ傳十五卷三百一丁物根の下小註せらる如し

備又此小忌部遠祖太玉者造幣と有小合せて第三一書小於是天兒屋命握天香山之真坂木而上枝懸以鏡作遠祖天板戸兒已疑戸邊所作ハ忍鏡中枝懸以玉作遠祖伊弉諾尊兒天明玉所作^ハ八坂瓊之曲玉下枝懸以粟國忌部遠祖天日鷲所作木綿乃使忌部首遠祖太玉命執取而廣厚稱辭祈啓矣又見元たるを以て凡ての幣帛の事を其神の掌給ふ由著明く又天孫降臨章第二一書小即以紀伊國忌部遠祖神手置帆負神定爲作望者彦使知神爲作^{望者}天目一箇神爲作金者天日鷲神爲作木綿者櫛明玉神爲作玉者乃使太玉命以弱

肩（祓）太千襪而代御手以祭此神者始起於此矣之所見
 たる（ハハシカ引ラ）古語拾遺の太玉神所戀神名云々と有る諸部
 神をして幣を令造て神祇の祭祀を興どり給ふ由か
 り記傳のも其文と引て祈年月次大嘗等詞の辞別小
 も辞別忌部能弱肩ル太多須支取掛氏持由麻波利仕
 奉禮幣帛平神主祝部等受賜氏事不落（落）過捧持奉登宣
 と見ゆ諸の御幣と造り備ふる事也此氏の職あり神
 祇令のも其祈年月次祭者百官集神祇官中臣宣祝詞
 忌部（頌）班幣帛之所見又四時祭式祈年祭條小前祭十
 五日亮忌部八人木工一人令造供神調度但鞞者鞞編
氏作槍木者

讚岐國送納前祭五日令木工寮受之 當曹忌部官一人監造若曹内無忌
 部官人及神部之中忌部不足九人者兼取諸司亮之其
 潔衣料布人別二丈七尺官人細一人米二升酒六合五位
二鮓三位三兩五位又加東二鱈五位二勺五位海藻二兩但
 木工者不給潔衣及食致齋之日平明奠幣物於齋院案
 上并案下所司預敷云云伯命云奉班幣帛史祢唯忌部
按下幣薦
 二人進夾案立史以官次唱唱御巫及社祝祝祢唯進忌部
 頒幣帛畢太神官幣帛者置史還座申頒幣訖諸司退出
月次祭あど所見たり補と云れき（是）即太玉命の諸部
儀准此神を戀て此小幣を造り仕奉給ひ一其職を受継て其

神裔の忌部氏供作る忌部の諸氏を變て班幣の事小
仕奉り有狀是あり供作る忌部の諸氏といふ引
等祖也手置帆負命讚岐國忌部祖也彦按知命紀伊國
忌部祖也櫛明玉命出雲國玉作祖也天目一箇命筑紫
伊勢西國忌部祖也此等の氏を云て太玉命
の神胤たる忌部宿禰の下風と成て世々仕奉り
り○玉作部ハ第三書玉作遠祖伊勢宿禰命天目玉命天孫降臨章第一書小玉作遠祖玉屋
命之所見古事記同段の玉祖命者玉祖連等之祖也
書され古語拾遺の櫛明玉命出雲國玉作祖也見え大
る其玉作部の玉を作部を云して玉祖連ハ其部の長か
るのて上の云る鏡作部の鏡作連との差異有が如く
あり偕其玉作ハ天孫降臨章第二書小櫛明玉神爲

作玉者有あどを共小多麻須理と訓る事ありども
仁賢天皇六年御紀小遣日鷹吉士使高麗召巧手者是
秋日鷹吉士被遣後有女人居千難波御津哭之日於母
亦兄於吾亦兄弱草吾夫何怜矣中住道人山寸新玉作
部鯽魚女生鹿寸鹿寸娶飽田女於是鹿寸從日鷹吉士
發向高麗由是其妻飽田女徘徊顧戀失緒傷心哭聲甚
切令人腸断有住道ハ和名秋郷名小攝津國住吉
郡住道須無と有り玉作部の玉作ハ今も玉造と書て
東生郡の地名あり鹿寸ハ姓氏録右京神別小玉祖宿
祢高御牟須比乃命十三世孫大荒木命之後也又河内
國神別天神

六千九百引の國造本
紀小作渡國造志實高
古樺朝阿岐國造高相
久志伊麻命世孫大
荒木直定國造
有る

天高御魂乃命十三世孫建荒木命之後也此所見たる
同卜人之聞伊麻鹿すハ其未のて祖名を号たりありけり又和名秋郷名小陸奥國玉造太萬豆久
利と註し出雲風土記小意宇郡玉作湯社今忌部郷高王
作村と云小御在し坐るあどを見ら小作を都久理と
ころハ訓たりけれ須理とハ云ざるあり且須流とハ
其玉を琢磨く事小琢磨爲りて狭子を都久流と云時ハ其
琢磨くより緒小貫連と迄小且りて廣けれハ多麻都
久理と云あむ良りりりけら然るハ同録右京神別
上天神
小玉作連高魂命孫天明玉命之後也天津彦火瓊杵
尊降幸於葦原中國時與五氏神部陪從皇孫降來是時

造作玉璧以為神幣故号玉祖連亦号玉作連有る造
作玉璧之玉作連とを並べ見ら時ハ玉作ハ多麻都久
理と決りて訓べき事灼然く又古事記玉垣宮殿小沙
本毘賣命の稻城小入坐し所小取其御子之時乃掠取
其母王或髮或手當隨取獲而物拘以控出云亦備玉緒三重纏手云爾其力士等
取其御子即握其御祖尔握其御髮者御髮自落握其御
手者玉緒且絶云々亦所纏御手之玉緒使絶故不獲御
祖取得御子尔天皇悔恨而惡作玉人者等皆奪其地故諺
曰不得地玉作也と所見たる此のて玉作と云ハ玉を
も緒をも合せて作るを云ある事知べし右の作玉人等と云

る即此の玉作部小當りの職員令小典鑄司正一人掌
造鑄金銀銅鐵塗饒瑠璃玉
作及江戸戸口名籍事有る瑠璃の義解小謂火齋珠
也こ所見たるハ當昔已小上古の玉緒あどを被用り
事ハ止たわ一故小火齋珠を專と作りハ一故小此の玉作部あ
ハ其頃の玉作ハ唯の玉瑠璃ありハ一故小此の玉作部あ
どをも多麻須理ハ云習へるを以て世人皆古の如く
何の心も無く然訓む事ハ成りハ一成りハ成りハ成りハ
遺小櫛明玉命出雲國玉作祖也と有て此石窟殿小令
櫛明玉神作八坂瓊五百箇御統玉と見え神武天皇殿
小櫛明玉命之孫造御祈玉古語美保伎玉言祈禱也其裔今在出雲
國每年與調物貢進其玉と有ハ傳十七ハ小己小註
カ如く上章第二一書小素戔嗚尊將昇天時有一神号
羽明玉此神奉迎而進以瑞八坂瓊之曲玉王故素戔嗚尊

持其瓊玉而到之於天上也有ハ此章拾遺カも見えて
の表物と爲て櫛明玉命をして令賜給へる珍寶あら
ガ此瓊玉を一も天照太神小奉りせ給ひて三女神を
生成一奉りせ給へるを其物根小因て素戔嗚尊の御
子と御在一坐す由縁有る御事あり神名式小出雲國
意宇郡熊野坐神社名神大ハ其素戔嗚大神小御在一坐
ある小同郡玉作湯神社御在一坐すハ右等の所縁小
由て皇御孫尊御天降の後小其神の此小住せ給へり
一ハ故小神武天皇御世小玉を貢上り一ある可一先
大殿祭詞小齋玉作等我持齋波利持淨麻波利造仕留瑞ハ

拾遺小謂り編祈
玉以て臨時祭式

坂尺瓊能 御吹支能 五百都御統乃 玉亦明和幣古語云
曜和幣字附氣有公凡出雲國所進御富岐玉六十連
三時大殿祭料三十 每年十月以前令意宇郡神戸玉作
六連臨時二十四連 氏備作差使進上と有る是あり又出雲國造神賀詞小
神乃禮自利臣能禮自登御禱乃神寶獻良久奏白玉能
大御白髮坐赤玉能 御阿加良毘坐青玉能 水江玉乃行
相亦明御神登云こと所見たる小臨時祭式小玉六十
八枚枚と有る下小赤水精八枚白水精十六枚青石玉四
十四枚と見えたる是あり出雲風土記小忌部神戸郡
家正西廿一里二百六十歩云こと有ハ右の出雲忌部

の本貫小して(右)玉作湯神社の神戸ありを和名扱小
ハ忌部郷と成れり又玉作山郡家西南廿二里有社も云
る其社是あり又玉作川源出郡家正西一十九里拜志
山北流入于海有年とも所見たり但右の忌部神戸云
詞奏参向朝廷時御沐之忌里故云忌部と云文有るハ
傳の誤あり右小引る拾遺の神武天皇殿小己小出雲
忌部の御祈玉を奉る事見えたハ忌部氏の本貫小
ら由知れたり然るを國造ハ其國の豪族ありハ
故小其部内小住へる忌部ハ其下風小立つ者あり
り沐浴して清むる事小引附て故云忌部ハ云搦り
たりけめども此ハ 又右小引る陸奥國玉造郡ハ出雲
甚ハ當りぬ事あり 又右小引る地名ありけるや神名式小同郡温泉神
社温泉石神社ハ彼玉作湯神社同トミあり可又志太郡

△和名枚郷名小陸奥
國玉造郡玉造信太
見元信太郡信太
二百餘信太郡の
方や本ありし借

敷玉早御玉神社御在坐を文武天皇御紀慶雲四
年五月癸亥の所小陸奥國信太郡生玉五百足と云人
の名出たり生玉ハ玉作の種族あり可一此小就
て按ふ小敷玉ハ繁玉のて五百箇御統あ緒小貫連
めて敷の多きを称へ早御玉ハ映真ハミタマ玉のて傳十七
小註せら羽明玉神ハ映明玉神の義あり小合れハ決
めて此櫛明玉命の亦名と聞えたり傳六百四小引
る國造本紀小阿岐國造志賀高穴穗朝天湯津彦命五
世孫飽連速玉命定賜國造と所見たりハ玉作の上祖と
聞えたり小阿尺國造の下伊久國造の上小思國造と

△借具敷玉早御
玉神社の乾て玉太
郡と敷玉の思と
思ゆ今仙且至領三
本本古川と云小驛
の辺中志田村と
云有り此地の本
かと思ん又後拾
遺ハは奥の緒絶
の橋貫是からを
踏す見んと感
ハす緒後拾遺ハ
白玉の緒絶の橋
の名としてし碑け
て落す神の流小
有ハ其橋ハ古川の
驛ハ在り云玉
小所以有る事此
て知へし
△後小國造本紀
証を著る人云と
同説して和名枚
陸奥國心太郡
太郷有れハ思ハ志
を誤り太字を脱
せり云あり但玉
命の所以有る事

有ハ今の安積郡伊具郡あり小思國造と云事語を成
さるが若く思太國造と有つむ太字を脱脱せらふ
る可一其下小阿岐國造同祖と云事必故由有ぬ可き
事次ある玉祖神社の下小云を合せ考ふ可き事あり
然れハ右等ハ本國ハ必出雲ある可一但缺ハ云
る如所思ハ玉祖命の上世小住給へりハ周防國ハ
引合せて心得可きありハ借右の玉祖連ハ天孫降臨章
第一一書小玉作上祖玉屋命と所見えたり其を玉祖
命と古事記小出たり其神名小因れる氏ハ鏡作神
の末小鏡作連有ると專同ト例あり和名枚郷名小河
内國高安郡玉祖多末乃周防國玉祖多萬乃と有る何
於也 於也

在

日本書紀傳二十一

〇八十五

わく本あるむと考ふ周防ある本ありける但
河内國あるも甚古き事と聞えて神名式小高安郡玉
祖神社御在坐る河内國神小玉祖宿祢天
高御魂乃命十三世孫建荒木命之後也と有る此人ハ
上小云々玉作部鹿寸云々其祖名を襲ひたりと聞えたり難波の玉造より
係て其邊小多く玉作部の住へる其群合シ主ありける
り天武天皇十三年御紀小玉祖連賜姓曰宿祢と所見
たり上小引る左京神別の玉祖宿祢ハ其より支りて
京小在て仕奉りあり又其玉作連を一本小忌玉作
と有る其より別りて出雲國の齋玉作と同族ある可

一又今昔物語十七卷小今ハ昔周防國一宮小周防國
一宮小玉祖大明神と申す神在す其社の神主ありて玉
祖惟高と云者有けり元亨釋書十七卷
小周防國玉祖神宮司惟高者累世神官也云々と有る
同ト人ありバ近昔まで七世小玉祖氏と云るあり此彼
遺りて有けり予先年宗像詣の歸らさ其社小詣奉
りて弟子原田年實小聞りむる小今
玉祖神社の神主小土屋氏有り古より玉屋を氏と
て累世此地小住り今玉石窟邊小玉屋敷と云ふ由
字有ハ其舊趾あり由土人云傳り所あり家傳小天
文七年藏人宣久と云一時あり玉屋と名乗りける
を其仕奉る神名と等しきを恐りて玉字の一點を省
きて其より土屋氏と云來る事小成たりと云りトコトイフカミ文華
の開けざり一時世にて
甚く思ふ事成たり
○豊玉者ハ第三一書小玉作

今右引る姓氏録玉
作運條の高御魂
命孫天明玉命の
所見たる

遠祖伊弉諾尊兒天明玉所作八坂瓊之曲玉と有る是
あり瑞珠盟約章第二一書小素戔嗚尊將昇天時有一
神号羽明玉此神奉迎而進以瑞八坂瓊之曲玉と有る
其羽明玉神ハ古語拾遺小櫛明玉命奉迎獻以瑞八坂
瓊之曲玉と所見え其磐戸段小令櫛明玉神作八坂瓊
五百箇御統玉と有る此を以て天明玉命とも羽明玉
神とも櫛明玉命とも申す御名御在―坐を知べ―古
事記の此段ハ科玉祖命合作八尺句瓊之五百津之
御須麻流之珠而云こと所見たるハ此の天孫降臨章
第一一書小ハ玉作上祖玉屋命と所見たり如此様ニ

の御名ハ御在―坐せども同神小渡くせ給ふ事其事
實と一ハ合せて曉る可き者あり偕此豊玉命と申す
豊ハ例ハ称名あるが此神と同名小―て異神ニ柱カ
む御在―坐ける一ハ此神を神祇本紀小玉作部遠
祖豊球玉屋神と見え口訣小豊玉天明玉也と有る右
ハ玉作神ありニハ神名式小阿波國名方郡天石門
別豊玉比賣神社と有ハ此天磐戸の事を以て御名小
冠ありせ奉り比賣神と申す也神名秘書小引る古語
拾遺異本小櫛明玉命玉作相也高皇產靈神女栲幡千二姬命之
妹也と所見たるハ此天明玉命ハ女神小御在―坐る

狀ある小己小玉祖連玉作部等の祖小御在り坐るハ
 猿女君あどの如く其職を以て継る氏とも所見す又
 女神ありじふハ何水の神あり嫁継給ひて御子ハ生
 給へるむを其夫とも申す可き神の御在り坐ざるハ
 ど甚く不審しき小就て考る小右の天石門別豊玉比
 賣神と申すハ別神のて此第一一書小謂ゆる稚日女
 尊小渡りせ給へる事論ひ定めて己小傳二十五小委
 しく註せらるが如小三ハ海神豊玉彦命豊玉姬命御
 在り坐る是あり然れバ此の豊玉神を女神と云るハ
 古語拾遺異本小限ゆる誤傳小あり有ける
其ハ右の天石門別

豊玉比賣神社の御在り坐る其事實を能も正し敢ず
 して漫小云る者あり但惣國風土記小河内國高安郡
 玉祖莊玉祖神社云々所祭玉依比咩也天智天皇四年
 始奉_玉田行神禮と所見たる其並び小御相神社云
 々所祭別雷神也欽明天皇三年始行神禮と有るを合せ
 て思ふ小山城國愛宕郡賀茂御祖神社賀茂別雷神社
 御在り坐り引當て御祖神を強て別雷神と一玉祖神
 をも賀茂御祖神と同一く玉依比咩也とハ偽云るハ
 此を以て玉祖神を女神と云證ハ立難くあり有ける
 諸此神の本社の神名
 式小周防國佐波郡玉祖神社二座と有る是あり風土
 記小玉祖神社圭田二千束祭神玉屋命天鏡命社号一
 宮と所見たり社傳小當社ハ伊弉諾尊御子御名と玉
 屋命又ハ羽明玉命又天明玉命又豊玉命又櫛明玉命
 と申奉る云々天孫を輔け傳ツびて日向國襲高千穂

岑小天降り葦原中國を治め令知給ふ此時天下未穩
あらず未廣き御惠の順ハぬ國有^一クハ玉屋命小仰
せて當國小下り當佐波郡大前の里小鎮座成さ^しめ
側の國々をも治め令平給ふ終小當國小於て神去給
ふ小因て此地小葬め奉る其所を玉の岩屋と云ふ近
邊小社を建て崇奉る玉祖大明神是あり云々其後景
行天皇熊襲征伐の爲筑紫小行幸^一給ふ時秋九月御
船を此所小寄^しれ行宮を設けて暫く渡御坐^し朝
敵退治の策を巡^し給ふ國神夏磯媛の奉り^しハ
握劔八咫鏡八坂瓊を當社小納め朝敵退散を祈給ふ

其神寶永く當社小傳ハ^し行宮の趾ハ宮城とて今
も遺り^し云々仲哀天皇神功皇后熊襲を征伐^し給ふ
時御船を此浦小寄^しれ高田の土を以て土器を作^し
し^し軍の吉凶を占給ふ今^{ウラテ}手の相撲其遺あり又當
地小陶師の居住するも其小始り^しあり其天皇の御
船を寄せ給ひ^し所ハ寄江とて御社の西北小在り云
々と云る社傳ハ甚^し正^しき事と聞えたり右の神夏
磯媛の事
ハ景行天皇十二年御紀小秋七月熊襲反^て不朝貢ハ
月乙未朔己酉幸筑紫九月甲子朔戊辰到周芳邊磨時
天皇南望之詔群卿曰於南方烟氣多起必賊將在則留
之云々今察其狀爰有^し女人曰神夏磯媛其徒衆甚多^一
國之魁師也聆^し天皇之使者則拔磯津山賢木以上枝挂
ハ握劔中枝挂ハ咫鏡下枝挂ハ尺瓊亦素幡樹^し干船舳

参向啓之曰願無下兵我之属類必不有違者今將歸德
矣云云有之此時の事あり若て仲哀天皇神功皇后
の御船を寄りし事ハ其ハ年御紀ハ春正月己卯朔
壬午幸筑紫時岡縣主祖熊鯨聞天皇車駕云々参迎于
周芳汝^蘇之浦而獻魚鹽地云々有之是あり其土器
を令造りて此神小備給ふ事ハ傳十五卷二百六十
五下小註ろ^ク如^ク土師娑婆連之云也此地小出たり
姓あり^バ其項より此小住著たり^一あり可^一占手の
事ハ相撲節儀小次出^占手^二有^下用^四尺以下^カ
童前一日於^内裏定^長短^或有^過四尺者當日不^相撲以
爲^負之有^是あり此ハ土師氏ハ彼垂仁天皇御紀小
所見たり野見宿祢の未あり^バ其相撲の占手の事を
任奉りて神慮を^侍右^の社傳ハ文章ころハ雅正も
非りけれ事實小於て^ハ甚^ニ正^一き古説小あむ有^け
る其ハ^凡て此御天降の時小供奉^ら^一五部神等ハ
^一七皆其任所小就給へる^ガ如^ク所思^一き由有^て已

小傳十九^{二百十}小註ろ^ガ如^ク神代小天兒屋命の住
せ給へるハ攝津國島下郡壽久山あり由春夜神記小
所見又此第一書小出たり石凝姥命ハ亦名を天香
山命と申せらるを亦名を牟粟彦命とも高倉下命とも
申せらる小紀伊國熊野小御在^一坐^一由神武天皇御紀
小其事跡傳^平る^カを思ふ小此社傳の趣も^評誣^ベル
くざる事あり有^ける其ハ傳六^{百四}小註ろ^ガ如^ク古
事記國生段小次生大島亦名謂^大多^麻流^別之有^ハ和
名^ハ大^玉有^別ふ^て玉^小由^りる^名あり此小就て思ふ
名^ハ大^玉有^別ふ^て玉^小由^りる^名あり此小就て思ふ

國造本紀
 小阿岐國造志賀高穴穗朝天湯津彦命五世孫飽連玉
 命定賜國造と有ハ大小由有る事めて天湯津彦命と
 云ハ天五百箇彦命と云事と聞ゆハ此天明玉命の
 子孫ありあり可次小引る白河國造條ハ天降天由部彦命と有る證也爲べし其飽連玉命ハ明映玉の意又國名
 を安藝と云も其玉小因りあり神名式佐伯小安藝郡連
 谷神社名神大月次新嘗伊都伎島神社名神大御在一坐る其速
 谷神社ハ其玉祖氏の遠祖一て瑞珠盟約章第三
 書小謂ゆら羽明玉神小坐せば巖島小御在一坐す三
 女神の御祖小近き由緒と聞ゆるあど甚々女縁の御
 事ハ御在一坐ざりけり然る故ハ依りけり清和天皇實錄

△見元長寛勅
 天慶三年二月日
 授正四位下蓋依海
 賊誅伏之御祈也

小貞觀元年正月廿七日甲申奉授安藝國從五位上速
 谷神從四位下同九年十月十三日戊寅授安藝國從四
 位下速谷神從四位上△有ハ巖島道芝記と云物小御
 社巖島より海上五十所陸地十所余都て六十町余有
 り佐伯郡平良郷小鎮座あり二宮速田大明神と号し
 奉る玉殿の内巖ひて坐すすと云るハ璞を以て神体
 と齋奉らるあや上ふ云ら出雲國意宇郡玉作湯神社
 も神体ハ璞小御在一坐るあも思合す可き事あり右
 續三小抑速谷大明神ハ三柱の女神巖島小天降三せ
 給ふ時の從神五鳥鎮座の地あり始三柱の女神の部
 曲小侍りて浦島を七所見行り給ひ笠の濱小
 宮所を求めさせ給へる後小五鳥ハ笠の濱より良小

當りて此平良郷小御光臨有り巖の上小御光臨有り
岩本の翁小神記坐して鎮座一給ふ云々云々ハ信
難事事あが三女神の從神五鳥鎮座の地ありと
云々ハ此速谷神社ハ羽明玉神小坐して三女神の成坐
一物根を作し一神あり故ハ此神を三女神の部曲
の如く傳訛り一者あり可一岩木の翁と云々ハ岩切
翁マ云事あり其ハ玉を作れる人を云て右ハ謂ゆる
作れる阿岐國造ある可き事其地主と云めて知りれ
た右の如く阿岐國造を玉祖氏の同族と見定め置て
猶國造本紀を見るハ大島國造の後周防國造の前ハ
波久岐國造瑞籬朝阿岐國造同祖金波佐彦孫豐玉根
命定賜國造マ所見たるを度會延佳説ハ波久岐可作
與之岐疑今周防國吉敷郡與之岐マ云々ハ實ハ然る言
めて和名汝郡名小周防國佐波馬波音吉敷與之岐マ所見

たる小佐波ハ豐後風土記ハ景行天皇十二年御紀の
事を書せるハ佐婆津と云て本ハ津の名あり今郡名
ハ成ても玉祖神社ハ其郡の西端ありて吉敷郡の境ハ
甚近けりハ古ハ其二郡を係て吉敷郡ありて有けり
一其國造ハ所任され給へり豐玉根命と云も此の豐
玉神の名を負持るありて玉作の謂ある事云も更ある
小佐渡國造志賀高穴穗朝阿岐國造同祖久志伊麻命
四世孫天荒木直定賜國造マ有る大荒木直ハ姓氏録
玉祖宿禰の出自ハ大荒木命と建荒木命とも云る
と同一人と聞え久志伊麻命ハ奇忌命めて忌ハ忌玉

△或云心久麻呂ハ
神功皇后平六年御
紀小遣子熊長之
子新羅と有る是ガ
可一ツカク豊島
命の名と武藏國豐
島郡有る由有リ
と云リ

作の謂ある可一又上八十小引る神名式小陸奥國玉
造郡温泉神社温泉石神社ハ出雲國意宇郡玉作湯神
社小相通ひて聞え又志太郡敷玉早御玉神社也決ク
羽明玉神也所思一き小合せて國造本紀小阿尺國造
志賀高克穗朝御世阿岐國造同祖天湯津彦命十世孫
比止祢命定賜國造之有ハ今安積郡あり思國造同朝
御世阿岐國造同祖十世孫志久麻彦定賜國造之有ハ
大字を脱せりめて思太國造ある可き事上八十小註
ろが如一又伊俱久國造同朝御世阿岐國造十世孫豊島
命定賜國造之有ハ今伊旻郡あり又淡羽國造同朝御

△久麻直常陸國
土記小陸奥石城郡
苦麻之村と見え今
相馬領の内岩城
思小熊野村あり共
地小川あり熊川と云
有リ地圖を按ふ
磐瀨郡の大熊瀨
より流出る河派白
河磐瀨安達信夫
伊達の五郡小此を
大熊川と云て阿武
隈川に至りあり
又信文郡熊倉村
有リ此等の久麻と
云より負る名不
可一と云リ

世阿岐國造祖十世孫足彦命定賜國造之有ハ今標葉
郡あり又信夫國造同朝御世阿岐國造同祖久志伊麻
命孫久麻直定賜國造之有ハ和名抄郡名小信夫志乃
分爲伊志乃之所見たる是あり又白河國造同朝御世天降
天由都彦命十一世鹽伊乃己自直定賜國造之有ハ和
名抄郡名小白河之良加波國分爲高野郡之所見たる
是あり右等ハ悉く小玉小由有ハ非れども玉祖氏
の同種ある事を明さむとて擧げたるあり備玉屋命ハ
の其一小御在坐す小其裔と云てハ僅小右京神別
の玉祖宿祢玉作連河内國の玉祖宿祢の二三氏より
外小所見ざるハ甚可惜し事小思へりハ先年八
洲起元章を注すとて傍古事記の生大島亦名謂大夕

麻流引と云事の説より起りて玉祖神社の事小及び
其より阿岐國造の事を明くむる小至りて稍々小其
玉祖命の子孫ある事を知初たる小今此小至りてハ
心の底際ウリも隈々ハ所無く説得て如此く其神
裔を多く見出たるあむ玉の光の行相小照炫ハひて
の甚映有る心ちする事ありける此ハ實ハ神の賜物
小ハ 儲立返りて上小引る周防風土記小玉祖神社主
田二千束祭神玉屋命天鏡命社号一宮又有る天鏡命
ハ傳二十ハハハ小云るが如く石凝姥命小御在ハ坐ハ
て共小五部神小渡ハせ給へら相並びて鎮ハ御在
一坐らあめり東大寺藏天平十年周防國正稅帳殘簡
小佐婆郡玉祖神稅天平九年定額稻參仟捌佰參拾肆
束之所見たる此を以見れば神名式ハハハ小社の部小

收給へらども上古ハ甚々盛り小御在ハ坐ハける事
灼然くあむ有ける神階の御事ハ清和天皇實錄小貞
觀九年三月十日周防國從四位下玉祖神授從三位と
見えて此まで從四位下小成さぬ事見え又紀
略小康保元年四月二日授周防國坐正三位玉屋神從
一位と有て貞觀九年より此康保元年まで九十八年
の間小正二位を奉ハ給へる事の存つハむを傳へ
漏せらふこと右の如く圭田も若干小御在ハ坐ハ神
階ハ諸社小超ハ給へるのハ上ハ十六下小云るが如く神主ハ玉屋氏有て其神
裔多る小如何ハハハ名神大社の列ハ御在ハ坐ハ當昔周防國ハ菅家小由有る土師宿
祢の世を經て住る地あり故ハ菅神左遷の御時ハ

どより共小衰へさせ給へるあどあハ右の社傳の如
非るり然れど此試ふ云ふのこあり
くハ玉祖命彼御天降の時小供奉させ給ひて天降坐
一後小初て住著給へるハ右の周防國あり然る小上
八十 小引る古語拾遺神武天皇段小櫛明玉命作之孫
造御祈玉 古語美保伎 玉言祈禱也 其裔今在出雲國と所見たるを
以て考る小(神)其御せより以前小己小其神の孫彼國
小支れ住たりけむを其ハ猶瑞珠盟約章第二一書小
云るガ如く此神素戔嗚尊小瑞八坂瓊之曲玉を獻
せ給へる小事起りて三女神の物根と一も成める事
小一有けぬハ其御縁小由て出雲神ハ殊小親一

御在一坐ガ故小彼國小行て仕奉りるあこり此玉屋
神社ニ座小次て出雲神社ニ座御在一坐るを祭神大
己貴命事代主命ある申ある小此を二宮と申せらハ
玉祖神社を一宮と申す小對へたらあり又傳十五
二十 小註せら同郡式外のて勝間神社と申す舊社の
御在一坐る即三女神のて渡らせ給へるあど故由有
る御事共あり
但右の出雲神社ハ右小引る社傳
の事有り又推古天皇十一年御紀小土師連猪手云々
故猪手連之孫曰娑婆連と有(又)皇極天皇二年御紀小
土師汝婆連猪手と云人名見えたる其土師氏ハ天穗
日命の子孫ありバ其氏人の仕奉る神として出雲
事勸請り一あり可一但此ハ ○山雷セイヤウハ神武天皇御紀
事の因コトと小云る云り之あり

頭齋條小新名爲巖山雷之所見たり即大山祇命の御
事あり若て雷字ハ伊加豆智と訓べし然るハ四神出
生章第七一書小伊弉諾尊拔劔斬軒遇突智爲三段其
一段是爲雷神一段是爲大山祇神一段是爲高靈爲靈之所見
たる其軒遇突智命を火雷神と申すハ更更あり其三段
ハ成坐る雷神の外ハ傳十一五十云々如く其
高靈神申を雷神と申す趾古書小所見たハ此大山
祇神申ハ山雷神と申す御名の御在坐るハ甚
然る可き御事あるハ此小山雷神野槌神相並ハ
して御切の御在坐あるハ合せて古事記小此大山

津見神野推神ニ神因山野持分而生神名云々云事
も所見たハ此を以て其ニ神の御力を合せ御在坐
す御事を明しむ時ハ即此山雷神即大山祇神の亦
名ある事著明くあり此山雷を古くより夜麻豆智と
訓し又口訣小ハ山祇山祇也野
槌野祇也と所見たハ其如くありて野槌神と相並ハセ
る御名ありハ夜麻豆智と唱へて例の山津持の義ハ
くむと思ひしりども猶雷字を伊 偕此小使山雷者採
五百箇眞坂樹八十玉籥野槌者採五百箇野籥八十玉
籥之所見て此ハ坂樹と野籥の八十玉籥をのり令
採りて如く所見たハ事ありども其ハ此の御祈の
場ハ用いて專要と有る物を一も抽出て其一を云々

神武天皇踐齋の所
小新名爲嚴山堂
名爲嚴野推之見
元行りてし物り描

のこころ有けれ此時山野小令採り物の皆ハ
其山雷神野槌神二柱小所任させ給へる由の傳と聞
ゆ其公傳十九百六十小且も心着て云初め又己小
上三十一の委六十一く明しめ云るが如く此小令採りれ
一八十玉籥ハ日神を招奉り料あるを以て殊小重き
を其小亞てハ新宮を造り仕奉り可き山材野草を令
採りけむと慥小所思ゆる事有て其所小註る上古
の天皇等の大宮造の御事ハ申すも更更あり後世と雖
も伊勢神造宮の造替小山口木本の二祭有り儀式又
式文小載たる大嘗宮の山材野草を令採りる爲小

物部の人共小食の山野小入て山神野神を被祭らる
ど其事の起りも必しも此小始りる故事小本著せ
らるる事小一有けれ其較略ハ推て知べき者あり
り一例凡て神宮朝廷小於て古より恒列として取行ハ
る佳例を取て行りせ給へる事今更更小云むも事舊小
たれども此時の新宮仕奉る事小右の二神の預り給
へる傳ハ古今の書典小是も載せざる事あるを其
中古小行りる儀式作法を以て其本を知ら事あり
○五百箇眞坂樹八十玉籥傳十九百箇小引るハ舊事紀ハ復令山雷者
掘天香山之五百箇眞坂賢木古語佐祢古自乃祢古自古有て正書
中臣連遠祖天兒屋命忌部遠祖太玉命掘天香山之五
百箇眞賢坂樹而云こと有る事を山雷神の行事と爲

乃ハ甚當ル事アリ其ハ皇太神宮儀式帳山向物忌
職掌條小右卜食定神任之日後家被清齋敬供奉職掌
太玉串并天八重神取備供奉職掌忌敬供奉齋内親王
二枝太神宮司二枝祢亘四枝宇治内人八枝并枝別木
枝懸之^即第三重御門東方一列八枝八重數六十四本右
方亦如左員並高四尺枝別木綿懸之此太玉串并天八
重佐加岐乃元發由者天照坐太神乃高天原^示御坐時
^示素盞鳥尊依種之荒惡行事天磐戸閉給時^示八十乃
神會於天安河邊計其可禱之方時^仁天香山^仁立^互握
眞坂樹^互上枝懸八咫鏡中枝^懸坂^天纒^瓊乃曲玉下枝懸天

眞麻木綿^互種、祈申^支此今賢木懸木綿太玉串^止号
之以此天乃八重佐加岐并祢亘乃捧持太玉串^仁大中
臣隱侍^互天津告乃乃太告乃乃厚廣事^遠多^レ倍申玉
串發由如件と書せる此を以見^レバ此時の太御幣ハ
一^レ謂ゆる太玉串と云物の始是あり其六月例月次
祭條小即以十六日此祢亘内人物忌父等引變正殿院
參入御内淨仕奉畢山向物忌之天八重佐加岐令差立
林饒奉并宮之御垣之廻令差立林饒奉之即此從宮司
宛納木綿令掛附奉之所見たるハ其太玉串を多く刺
立て林饒奉を以て天八重神と云ありけり^レ此

小鏡玉和幣を取懸たる五百箇真坂樹の本より唯一
 本の有けぬども此場小参侍より一神等も各
 其玉串ハ取捧けられけむを此ハ八十玉籤と云る
 ハ其までをも係て令採りぬ者ありけり 又建久行
事記四月
 十四日神夜神事勤行次第今日内院南面番垣并玉
 串及四御門合三重玉垣御神奉差是公候氏之勤也又
 八重神奉差其數員百二十七枚也 是山向内人之役也
又荒垣爲居并一二鳥居興玉神等同今日所奉差也荒
 祭神拜所差神破宮下部役也玉串料神山向内人之勤
 也德御神奉差事年中四箇度也四月六月九月十二月
 御祭度也云と見えたり 儀式帳小東方一列
八枝ハ重數六十四本右方亦如左員之有を或説小東
 西ハ枝づあり合せて六十四枝東西合せて百二十
 ハ枝あり然るを東の端を一本關く故小百二十七枝
 あり是不滿の意ありと云るハ右小天八重佐加岐令
 差立林齋奉と云る是あり又齋宮式も凡齋宮諸門

常立著賢木綿賢木と有て下小月毎立替 諸此の狀を
所須木綿一斤麻一斤八両と書されたり
 思ふ小五百箇真坂樹の太御幣ハ第三ノ書ハ乃使忌
 部首遠祖太玉命執持而 廣厚稱辭祈啓矣 有が如くあら小又其
 其ハ百萬神も各太玉串を持て神庭小参向りぬ料
ハ即此 八十五玉籤あり有けぬ一其ハ神名秘書小今太玉命
 捧持幣帛令天牟羅雲命捧持太玉串亦令天兒屋命以
 廣厚稱詞祈啓矣と云事所見たぬども太玉串を捧持
 つ事ハ太神宮月次祭詞小大中臣太玉串 隱侍天 今
 年六月十七日 乃 朝日 乃 豊榮登 亦 稱申事 云と神嘗
 祭詞小大中臣太玉串 亦 隱侍天 今年九月十七日朝日

乃豐榮登_ル天津祝詞乃太祝詞事_ヲ稱申事_ヲ云々
有ハ右小引_ル儀式帳小祢_巨乃捧持太玉串_ト大中臣
隱侍_ト天津告_カ乃太告_カ乃廣厚事_ト多_ク倍申_ト見
えたるを此小引比ぶる小右の第三一書の太御幣を
太玉命小執_持侍_トめて天兒屋命の祢辭祈啓_一給へる
小相當_ルバ此神ハ其太_御幣_ト屬_テの事_ハ別_ニ小
太玉串ハ捧持給_ハト云_フ云_フ云_フ然_レ儀_式
帳六月二次祭條小齋内親王以十七日午時參入坐_ル
云々太神宮司復執太玉串_ト參入_ト跪同侍即命婦亦
出受取奉親王_ト即親王拍_子自執_ト捧參入内玉垣

御門就坐席_{命婦}人從_之即避席進前再拜而段訖即命婦一
人進受太玉串授大物忌子即大物忌子受立瑞垣御門
西頭進置畢即親王還本座就然後云々即太神宮司進
版位告_カ申畢即返就本座宮司之手捧持玉串宇治大
内人立太神宮司太玉串取本坐侍即祢_巨召大物忌_父
子即太玉串給立御門東頭進置還本坐侍又宇治大内
人立祢_巨太玉串受本座還侍即祢_巨召宮守物忌_父
太玉串給立御門西頭進置畢本坐返侍祢_巨又召地
祭物忌_父即宇治大内人太玉串四枝給立御門東頭
進置還本坐侍即宇治大内人捧太玉串_子自進御門西

頭進置畢本坐返侍之所見たる即玉串行事是あり其
宇治大内人職掌條の三節祭并春秋神衣祭及時幣
帛驛使時太玉串并天八重櫛儲備供奉と有る此事小
依て玉串大内人こ云ひ其第三重門ハ太玉串を進る
所あるを以て玉串御門と云ふ何れも建久行事記小
出たり如此く神宮小參向ひて神事小仕奉る主こ
手際ハ悉く小太玉串を捧持て進ら例を古小及こ
て思ふ小此の山雷神ハ右の山向物忌の職掌小當り
天牟羅雲命ハ玉串大内人小當れこ此を以て此小
神會ハ小諸神も各太玉串を捧持て祈啓されける

小當て其都てを五百箇眞坂樹ハ十玉籤とハ云傳ふ
るありむ事推て知べき者小あり然れバ神宮小て云
との起ハ此小在て彼太玉命の取捧奉ら小太玉串
よりハ重櫛ハ出来天牟羅雲命の太玉串（あり）ハ後小
も傳へて玉串行事の始あり神名秘書小右の太御幣
の事を書して下小伊勢太神宮寶前奉立之處ハ重櫛
此之縁也載大同本記具也こ所見たり猶此玉串行事
の事小就てハ委こくも云ハ將欲こりれとこ己小祝
詞講義小註せれバ今云ふ限小非るを玉籤（公私記）
此ハ其始の事を以り云知せむとあり
問玉籤者是何物哉答坂樹也玉者尊貴之名也用此坂
樹刺立於地爲祭神之木故謂之籤耳と有が如く但玉
者尊貴之名と有ハ如何あり此ハ神の御靈を招奉る
串と云事小て有べくや中臣壽詞ハ水取の御事を天

和名坂祭祀具小日
本紀云玉籤大萬
久之見えたり其
意ハ

忍雲根神天乃浮雲仁乘天乃二上仁上坐仁神漏岐
神漏美命乃前仁申世天乃玉櫛遠事依奉仁此玉櫛遠
刺立仁自夕日至朝日照万天都告乃太詔乃言遠以
告禮如此告波麻知波弱菲由都五百箇生出年自
其下天乃八井出年此連持天天都水止所聞食止事依
奉支之所見たる天乃玉櫛も同物あるして此物を標仁
小立て其小向ひて天津祝詞の太祝詞を告仁其事
小對へて天都水を降し給りむらめて此小太御幣を
取捧げ諸神等も各其八十玉籤を刺立て日神の御靈
を招請奉仁と專一事小あり有ける又天孫降臨

章第二一書小謂ゆる天津神籬も素より此事小因り
て起樹させ給へる物あり事其傳小就て註せらる如
く其内殊小近きハ天孫本紀小宇摩志麻治命先獻天
瑞寶亦豎神楯以齋矣謂五十櫛亦云今木刺繞於布都
主劍大神奉齋殿内之有る五十櫛ハ万葉十三丁小五
十串立神酒座奉神主部之雲聚玉蔭見者之文仁見元
たろ五十串めて齋串イタシの義又其今木ハ齋木の義仁聞
ゆ仁此の玉籤の意小等仁りゆぬ可き事あり且古
小玉矛玉梓あど云らハ正仁く眞の玉を著たる故の
事めて其より轉りて玉松玉椿あどの如く虚字小云

△此事下三福解除
の所十六百三十三水口系
條云云と合せ見
る可し

るも玉（てんぎせ）の美好き物無（）れが其（）の比へて（）稱（）ある事ありて
ハ有れども此ある玉簪（）の靈串の義ありが私記の玉
者尊貴之名也と云るハ甚當くざる説ありむ有ける
偕太玉串（天童神）の制ハ右小引る儀式帳小高四尺枝別木綿
懸（）之と有を始（）こりて太神宮式小著木綿賢木是名太
玉串と見え建久行事記小神玉串云神枝每木綿結付
也と有あり（）永久勅使記（）ハ外宮神事官司稱直等取
賢木一枝謂之玉串内宮取玉串二枝不取
督左右手也と有り偕簪（）字ハ名義ハ新留志（）と保
曾志（）とも行能久志（）とも有り凡て久志（）ハ物小刺立
るを云れが櫛（）又ハ串（）○野槌者（）ハ此ハ神武天皇御紀
の類も同言あるあり（）○野槌者（）ハ此ハ神武天皇御紀
顯齋の所ハ草名爲巖野推（）と所見たり偕右の山雷

神の下小註る如く此御祈の度小被用たり（）限の山
野小出るハ悉く小此山神野神小令採る（）中
此野神小就て殊小重手ハ此五百箇野鷲之八十玉簪
小て其用ハ此次小明（）りたるが如くある其專要た
る方の一を擧（）りたる小ころ有けり上（）三下（）小粗云
ハ此時日神を鎮奉る新殿の山林を山神小令採る小
就て其菅草（）を令新（）りし事ハ傳ハ下（）小説る草野姫
命と申す御名ありて灼（）り其大嘗祭儀及大嘗祭式
在京齋場條小ト部孿國郡司以下及役夫等入ト食山
採材即祭山神訖造酒兒先取齋弁始伐木然後諸工下

採大嘗宮 又卜部繼郡司以下雜色人等入卜食野苧
草即祭野神訖造酒兒先苧次諸人下手苧大嘗宮之所
見たる是人の世と成て其木を苧草を艾らふ就て
其山野神を被祭らふころ有けれ此よりハ其山野神
共小然る御功の御在り坐て日神の新殿供奉る木草
各採て被進り例ふ倣ひて其神と齋奉らせ給へる
由あり又神宮の御事ふ於ても然り太神宮式新宮造
奉時行事條次取吉日山口神祭用物并行事云々右祭
造宮驛使忌部宿祢告刀申畢即山向物忌以忌鎌草
木苧初然以後役夫等草苧木切所ハ山野散遣之所見

たは此山口神祭の時ハ山野の事共を取行ひ仕奉
りりして次ふ取吉日爲正殿心柱造奉云々入杣木本
祭用物云々右祭告刀申造宮驛使忌部宿祢其忌柱造
奉畢自拙出前追運來置正殿地也と見え又次取吉日
爲造御船代木云々杣山木本祭用物云々右如之祭告刀申
御巫内人畢時山向物忌先以忌芥木本切始略と有
る此二の木本祭と云々全く山神の祭ハ有ける外
宮儀式帳の趣も然り次取吉日山口神祭云々右件物
祭奉畢時御巫内人告刀申畢即管裁物忌以忌鎌草
木苧始然以後諸役夫等草苧木切所ハ山野散遣云々

次取吉日爲正殿心柱造奉云々入杣木本祭奉云々次
取吉日爲造御船代木云々入杣山口祭用物云々如之
祭告乃申御巫内人畢時菅裁物忌先以小銚木本切始
然後役夫等切造之所見て全同ト事あり太神宮のて
ハ山向物忌の仕奉る行事を外宮のてハ内官裁物忌の
職掌あり如此く山口木本の二祭ハ共ハ山神のこの
祭の始如く始ある山口祭の其事を云ざれど
も野神の祭をも合せ行ふ意味ある事其両宮共ハ被
行る所の儀式作法を以て考合せ曉る可き者あり
予先のハ大嘗祭儀又式あどト食の山の入て山神
を祭り然後ハ木を伐り又ト食の野の入て野神を祭

るる事あるハ神宮の於てハ神代の古式の殊ハ傳
ハる可き苦あるを然るぬハ如何ある事ト常ハ不足
ヲ思へりハ右の云る如き子細有が 備上九十山雷
上ハ又其沿革の所以も有るありけり 諸上九十山雷
神の下ハ引る如く皇太神宮のてハ山向物忌の職掌
トして仕奉る事を度會宮のてハ菅裁物忌ト云有て
其職相同トきハ若くハ豐受大神を丹後國より勸請
りハ以前のハ共ハ内宮の在て山向物忌ハ山材を採
る方ののハ仕奉り菅裁物忌ハ野草を採る方ののハ
仕奉りけりハ依て各其意味の名有つる者ある可
ハ然るハ菅裁物忌ハ本度會の地あどハ住たりけむ
ハ其宮ハ屬奉る事ハ有れども内外宮の隔儀式

以後の如く惣計り際ハくも非りけむ程ハ互小相
通ひて仕奉りけむを何時も無く山向物忌みて管裁
の事をも兼ね管裁物忌みて山向の事をも相兼る事
とハ終小成ハたふハり外官儀式帳ハ管裁物忌條
小右人行事卜定任日後家難事被淨ハ立忌館造別春
始二所太神宮ハ大御饌處ハ佃奉拔穂ハ御田始奉時
尔祢ハ宜變管裁物忌並諸内人等ハ湯釜山ハ尔參上時ハ
山口祭供奉其祭物云々等ハ以ハ祭供奉畢時告刀申御
巫内人祭畢即深山祭ハ標木本到ハ木本祭供奉其祭
物如山口祭其告刀申管裁物忌父申畢時管裁物忌淨

銚以ハ其木切始然後祢宜内人等我戸人夫等祭時共
起一時令切ハ湯釜ハ造持ハ真佐支ハ乃鬢ハ人別給ハ
管裁物忌ハ前立ハ祢宜變諸内人等ハ下來ハ二所太
神ハ乃御饌處ハ乃御田ハ尔下立ハ先管裁物忌湯釜持ハ東
向耕佃湯草湯種下始然畢時諸内人等我戸人夫以令
爲耕殖狀即管裁物忌父田儼仕奉云々然畢時歲實鬢
給畢皆悉罷去然後祢宜内人物忌並諸百姓等私田耕
始也又新宮造時宮處草木新裁始又野山草新裁始略下
と所見たら其山口木本祭の行事ハ右の山向物忌の
職と同一きを以下ハ管裁物忌の掌として甚似着ハ

一きを以て其然る所以を曉る可きあり若て其山向
物忌ハ男あるを此菅裁物忌ハ女ある其も此小山雷
神野槌神ハ男女小渡くせ給へる小合わが上古ハ
必據有て起わ職掌と聞ゆわ元ハ二宮を兼て相
並び仕奉りけむ事を思ふ可き者あり備又右小引
る内官山口
祭條ハ即山向物忌以忌鎌豆草木并初然以後役夫等
草并木切所ハ山野散遣有を外官あるも同ト文ハ
て即菅裁物忌以忌鎌豆草木并初然以後諸役夫等
草并木切所ハ山野散遣有て其掌る所同トと雖も
此山口祭ハ山野の神等を被祭る事右小己ハ云々如
くある小山向物忌ハ草并の事似氣無く菅裁物忌
ハ木切の事着無ト雖も相兼たるハ木ハ相共小
相奉る事ありけむを両宮小相別れたりト以來其右
の如く成たりト者ト見ゆ又内官地鎮謝祭の所小右
祭告月申地祭物忌又仕奉る有ハ其職名小合せて思

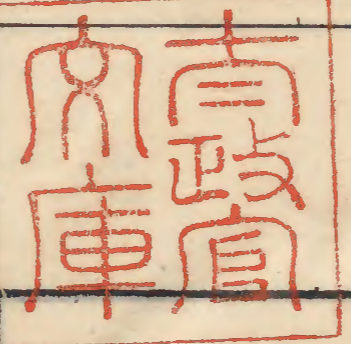
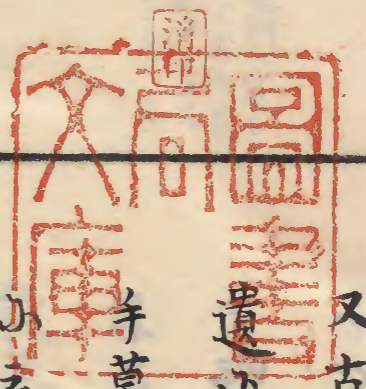
ふ小然も有べきを次小地祭物忌以忌鎌豆宮地草并
始次以忌鎌豆宮地穿始奉る有る此を外宮同祭ハ
菅裁物忌以浄鎌豆宮地草并始次以浄鎌豆宮地穿始
奉る見えたりト古より沿革有て延暦の儀式ト定れ
るありト猶其始ト
思ふ可き者あり ○野篇八十玉籤ハ口訣小野篇者
第也茂生以称之篇進也ト有り万葉二十一ハ水篇并
信濃乃真弓吾引者云々三篇并信濃乃真弓不引爲而
云々ト見え新古今集ハ今宵誰篇吹く風を身小占シテ
吉野の嶽の月を見らるむト有ハ更あり旅人の篇の
篠屋あど後世の歌ハ多く詠る是あり冠辞考ハ篇ハ
志能米竹の類ハて其小さくして色黒キ竹あり其を阿
波土佐あどの國みてハ須受マ云ト云りト有り右小

又文選訓小箬を
能多初と有七其
略めて謂ゆら箬
竹の事と聞え

てハ口訣小茅也と註せる小違ひたれ何れ其
云べうざら状ある小就て熟思ふ小右の志能賣竹
ハ古語拾遺小苗葉忽枯損似篠竹と有る篠竹是あり
可一和名枚竹類小篠和名之乃一云佐之俗用小竹二
字謂之佐之細之竹也之所見△たる小篠纂疏小野蒿小竹
之名と有七合り然る小神功皇后御紀小所見たる幡
萩穂出吾也と有る類の波多須之伎を後世歌ハ多
く志能須之伎と詠む事あるガ字ハ篠芒と書ふ可
一芒ハ芭茅とも芭芒とも作て時珍説小葉如茅而長
四五尺甚快利傷人如如鋒刀と云るハ須之伎の須

ハ口訣小謂ゆる進の意伎ハ其芒刺を云るありハ右
小如鋒刀と云る状小異ありず右の如くハ芒と茅と
同種の物ありハ篠行と云る也と云るも其異り無る
可き事あり備纂疏ハ野篠と作られたる篠ハ茅の一
名ありて兼同物の由本草小所見たれども諸本共
小野蒿と作る薦と箭と其音同トけれハ義も通へる
小ヤ今野蒿と作るハ冠辞考古史徴引られたる小依
りハ通證小右の口訣の文を引て今按此乃前章草野
蒿為野茅之意私記亦訓野蒿為須之岐延喜式食
薦訓須古毛尔雅薦黍蓬疏蒿也廣韻籜也又韻會進也
洪子與嚴陵祠詩岳釣想遺芳撰籜差野蒿穀梁傳注無
雅而祭曰薦と有り名義抄小薦字を古毛とも須と年
とも年志呂とも久佐とも能夫とも阿具とも加佐奴

△通證小字曲竹之
小者曰箚周礼註
箚條也者り



と有り備右小云る箚ハ和名秋竹類小
 篔和名乃箚竹名也之有て箚の事あり△
 八十玉箚を此の事實小合せ箚ある小此玉箚ハ右の
 太玉串とハ別して正書小謂ゆる茅纏之稍ハ更あり
 又古事記小午草結結天香山之小竹葉而と有る此を拾
 遺小以竹葉飲惣木葉爲午草之所見たる飲惣木葉ハ
 午草小採れり賢木を云由己小傳十九四百十四丁又
五百四十七丁
 小云る如くありバ此二を以ても眞坂樹と野蒿との
 玉箚小當り又其百六十
六丁小註る此の瑞殿の山材野草
 共小山雷野槌ニ神をして令採るれ一事あり有りれ
 バ四神出生章小此御名を草野姫と所見たる其ハ屋

